

大月遺跡(第11次調査)

—大月東小学校校舎建替えに伴う発掘調査報告書—

2015.3

大月市教育委員会
昭和測量株式会社

大月遺跡(第11次調査)

—大月東小学校校舎建替えに伴う発掘調査報告書—

2015.3

大月市教育委員会
昭和測量株式会社

あいさつ

大月遺跡は明治 34 年に発見された遺跡で、調査地点を変えて過去に 10 回の調査が行われており、今回の調査で 11 回目の調査となります。

これまで大月市立大月東小学校敷地内は、大月市教育委員会が過去に行った試掘調査の結果から縄文時代、奈良・平安時代の遺物と時期不明のピットの存在が確認されており、遺跡の拡がりは認められるものの具体的な内容については判明していませんでした。しかし、今回の調査で奈良・平安時代の竪穴住居や縄文時代の遺物が確認されたことにより、縄文時代と奈良・平安時代の大月遺跡の集落範囲が山梨県立都留高等学校から大月市立大月東小学校まで拡がっていることを確認することができました。

大月遺跡第 11 次発掘調査の記録である本書が、本地域での歴史研究発展のみならず今後計画される開発諸事業への対応等、幅広く活用されることを期待します。

終わりに、調査の実施にあたりご協力をいただいた関係機関各位に深く感謝申し上げます。

平成 27 年 3 月

大月市教育委員会
教育長 天野 由郎

例　言

1. 本報告書は、山梨県大月市大月二丁目字中道318番外に所在する大月遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は大月市による大月東小学校校舎建替えに先立って実施されたもので、大月市と昭和測量株式会社の間で協定を締結し、大月市教育委員会の指導・監督・助言のもと昭和測量株式会社が発掘調査および整理作業を行った。
3. 発掘調査は平成26年6月9日～7月9日にかけて実施し、整理・報告書刊行業務は平成26年7月10日～平成27年3月30日まで実施した。
4. 発掘調査および本報告書の執筆は、
　第1章　調査に至る経緯を稻垣自由（大月市教育委員会）が担当し、第2章から第6章と全体の編集を小谷亮二（昭和測量株式会社）が担当した。
　遺物の実測およびトレースは、藤原由香、上島光子、大森透江、齋藤里美が行った。
　遺物写真は、小谷が撮影を行った。
5. 本報告書で使用地図は、国土地理院発行の「大月」(1:25000)を使用した。
6. 遺跡におけるX、Y座標は世界測地系座標を使用している。
7. 発掘調査および遺物の整理においては次の方々に御指導と御協力を賜った。感謝の意を表したい。
　（順不動、敬称略）
　瀬田正明　保坂康夫
8. 本調査における図面・写真・遺物はすべて大月市教育委員会で保管している。

凡　例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各挿図中に記載した。
2. 写真図版の縮尺は任意である。
3. 水系レベルの数字は海拔高を示し、単位はメートル(m)である。
4. 土層断面、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖1990年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に基づいた。

本文目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	
第1節 遺跡の立地	1
第2節 歴史的環境	4
第3節 大月遺跡の調査経過	6
第3章 調査の方法	10
第4章 調査の概要	
第1節 検出状況	10
第2節 土層断面	10
第5章 検出遺構	
第1節 竪穴遺構	13
第2節 土坑	20
第3節 ピット	20
第6章 出上した遺物	25
第7章 まとめ	33
引用・参考文献	34

挿図目次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 遺跡周辺の地形	3
第3図 周辺の遺跡分布図	4
第4図 大月遺跡の過去の調査	7
第5図 大月遺跡遺構分布図	11
第6図 土層断面図	12
第7図 1号竪穴遺構	14
第8図 1号竪穴遺構土層断面・エレベーション	15
第9図 1号竪穴遺構 SP99 土層断面	15
第10図 2号・3号竪穴遺構	16
第11図 4号竪穴遺構	17
第12図 4号竪穴遺構カマド	18
第13図 1号～5号土坑	19
第14図 北調査区ピット分布図	21
第15図 南調査区ピット分布図	21
第16図 ピットエレベーション（1）	22
第17図 ピットエレベーション（2）	23
第18図 遺物出土分布図	26

第19図 遺物実測図（1）	28
第20図 遺物実測図（2）	29
第21図 遺物実測図（3）	30

表目次

表1 周辺の遺跡地名表	5
表2 大月遺跡の調査成果	8
表3 竪穴遺構計測表	17
表4 土坑計測表	19
表5 ピット計測表	24
表6 遺物観察表（1）	31
表7 遺物観察表（2）	32

写真図版目次

写真図版1	18. 南調査区西壁土層断面1
1. 解体工事前	19. 南調査区西壁土層断面2
2. 調査前風景（解体工事後）	20. 南調査区西壁土層断面3
写真図版2	21. 南調査区南壁土層断面1
3. 北調査区全景（東から）	22. 南調査区南壁土層断面2
4. 北調査区全景（北東から）	23. 南調査区南壁土層断面3
写真図版3	24. 1号竪穴遺構東壁土層断面1
5. 1号土坑完掘（北東から）	25. 1号竪穴遺構東壁土層断面2
6. 1号土坑完掘（東から）	26. 1号竪穴遺構北壁土層断面
7. 1号土坑土層断面（北東から）	写真図版7
8. SP69 完掘（北から）	27. 1号竪穴遺構（西から）
9. 北調査区東壁土層断面（南西から）	28. 1号竪穴遺構 SP99 上層断面（南西から）
10. 北調査区西壁土層断面（北東から）	29. 1号竪穴遺構 SP99（南西から）
11. 北調査区北壁土層断面（南から）	30. 1号竪穴遺構 SP104 上層断面（南西から）
写真図版4	31. 1号竪穴遺構 SP104（南西から）
12. 南調査区全景（西から）	写真図版8
13. 南調査区北側（西から）	32. 1号竪穴遺構遺物出土状況1 （全体・No.4.27・No.1）
写真図版5	33. 1号竪穴遺構遺物出土状況2 （全体・No.13・No.2・No.12.5）
14. 南調査区南側（北西から）	34. 1号竪穴遺構掘り方（西から）
15. 南調査区南側（西から）	35. SP105 土層断面（西から）
写真図版6	36. SP105（西から）
16. 南調査区東壁北側土層断面	
17. 南調査区東壁南側土層断面	

写真図版9

- 37. 2号竪穴遺構東壁土層断面（東から）
- 38. 2号竪穴遺構（南から）
- 39. 3号竪穴遺構（西から）
- 40. 3号竪穴遺構東壁土層断面
- 41. 3号竪穴遺構南壁土層断面

写真図版10

- 42. 4号竪穴遺構（西から）
- 43. 4号竪穴遺構カマド検出状況1（南から）
- 44. 4号竪穴遺構カマド検出状況2（北から）
- 45. 4号竪穴遺構カマド検出状況3（西から）
- 46. 4号竪穴遺構カマド検出状況4（北から）

写真図版11

- 47. 4号竪穴遺構カマド掘り方
- 48.SP100（西から）
- 49.SP106 土層断面（南西から）
- 50.SP106 遺物出土状況(No.21)（南西から）
- 51. 2号～4号土坑（北から）
- 52. 2号～4号土坑土層断面（西から）

写真図版12

遺物写真（1）

写真図版13

遺物写真（2）

写真図版14

遺物写真（3）

第1章 調査に至る経緯

大月市教育委員会は、大月市立大月東小学校の北側校舎の老朽化に伴い、平成26年7月から平成27年3月にかけて校舎建替えを計画した。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である大月遺跡に隣接していたため、平成20年12月10日に大月市教育委員会が試掘調査を実施した。試掘調査の結果、奈良・平安時代に属すと思われる土器細片と柱穴の可能性のあるピット列および土坑が確認されたため、大月遺跡の範囲が大月市立大月東小学校敷地内まで拡がることが確認された。平成25年3月、新校舎の設計が確定したことを受け、平成20年12月10日に実施した試掘調査地点とは別地点にて試掘調査を実施することとなり、大月市教育委員会は平成25年5月27日付にて文化財保護法94条に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を山梨県教育委員会へ提出、平成25年8月20日に試掘調査を実施した。試掘調査の結果、平成20年12月10日実施の試掘調査と同様、奈良・平安時代に属すと思われる上器細片と柱穴の可能性のあるピットが確認されたため、現地にて本調査を行い、遺跡を記録保存する必要があると判断された。なお、調査区については、既存の校舎によって攪乱を受けていないと判断でき、かつ新校舎建設により遺跡が破壊されてしまうと考えられる北側校舎と南側校舎の間にある中庭部分の250m²が対象となった。

本調査については、大月市からの委託により昭和測量株式会社が実施することとなり、平成26年5月2日付にて契約が締結され、契約期間は平成26年5月3日から平成27年3月31日、現地での本調査については、平成26年6月9日から平成26年7月9日の期間において実施、調査終了後は山梨県笛吹市石和町に所在する昭和測量株式会社文化財調査課埋蔵文化財整理室に出土遺物および調査記録図面を移動して整理作業と報告書執筆作業が実施された。なお、委託業務名は、「大月東小学校校舎建設に伴う大月遺跡埋蔵文化財発掘調査業務」である。

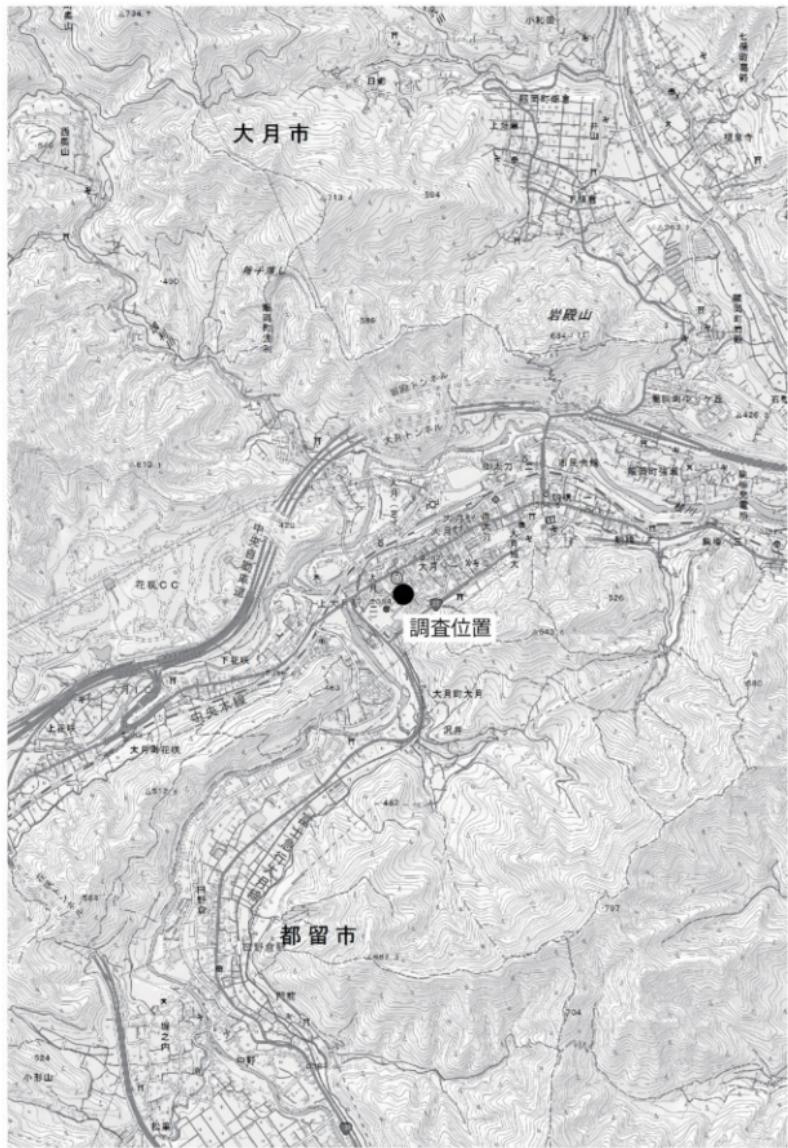
第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の立地（第1・2図）

大月市は、東を丹沢山塊から連なる山々、北は秩父山地、西は秩父山地から延びた南大菩薩山嶺、御坂山塊に囲まれている。一方、本遺跡の西側には山中湖を水源とする桂川が北上し、北西方向には笛子峠から流下する笛子川がその支流、真木川・藤沢川・大鹿川等と合流しながら東進し、大月市花咲でその両河川は合流する。さらに東進する桂川は支流の葛野川と合流し下流の相模湖へと流れ込む。その後相模川と名前を変え相模湾に到る。

大月市は桂川やその支流によって河岸段丘が発達した。しかし、山林が約7割を占めており、現在この河岸段丘上が人々の生活の場を占めているが、その状況は古の時代から変わらず、笛子川や桂川北岸の台地上に遺跡も多く確認されている。そのような立地の中で、大月遺跡は南の輪宝山（菊花山）と北の桂川の間に形成された後期更新世の低位段丘上の西端に位置する。現況の標高は363mを示す。

地質的には、桂川流域では、古富士火山起源の武藏野ローム層、次いで桂川中位段丘礫層、古富士泥流堆積層、立川ローム層が堆積している。今回の調査では、1号竪穴住居跡の柱穴の底（ロームを掘り込んでいる）から溶岩塊が確認された。

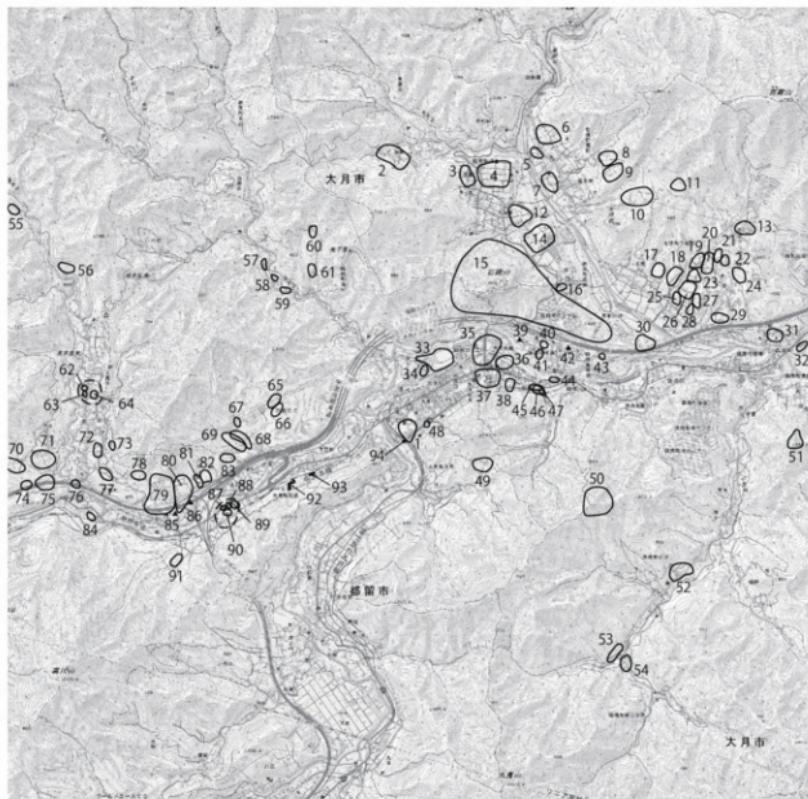


S=1/25000

第1図 遺跡位置図



第2図 遺跡周辺の地形（「国土地理院撮影の空中写真（1948年撮影）」）



第3図 周辺の遺跡分布図

第2節 歴史的環境（第3図・表1）

大月遺跡の位置する河岸段丘には、縄文・奈良・平安・中世の遺跡が多く見られる。

ここでは、本遺跡周辺の遺跡を紹介する。

縄文時代

45 御所遺跡は縄文時代・奈良・平安時代・中世の遺構・遺物が検出されている複合遺跡である。内容については各時代で紹介する。縄文時代では早期から晩期までの遺跡と知られており、竪穴状遺構、焼土遺構等が検出されている。66 孝道2遺跡からは、6軒の竪穴住居跡が検出され、そのうち5軒で縄文時代前期後葉の諸磯a～c式期の土器片が出土している。68 芝草遺跡からは竪穴住居跡1軒と縄文時代前期末、諸磯c式の土器片と石斧・搔器が出土している。住居跡は重複しており建替えもしくは拡張された可能性が考えられる。80 原平A遺跡からは、縄文時代早期の竪穴住居56軒、前期2軒、中期の井戸尻跡から曾利期にかけての竪穴住居28軒が、奈良・平安時代の竪穴住居が13軒検出された。

表1 周辺の遺跡地名表

番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
1	大門遺跡	縄文時代中・後期、奈良・平安時代	集落	49	地城洋道跡	縄文時代	散布地
2	日置遺跡	縄文時代中期	散布地	50	駒橋御前山	中世	城郭跡
3	烟管サバ遺跡	縄文時代中期	散布地	51	猿鳴城山	中世	烽火台
4	櫛谷中原遺跡	散布地		52	トロ小字遺跡	縄文時代中期	散布地
5	沖平遺跡	縄文時代早期	散布地	53	むなさき遺跡	縄文時代中期	散布地
6	葛野小京遺跡	縄文時代早・前・中・後期 平安時代	散布地	54	朝ノ木小字遺跡	縄文時代中期	散布地
7	七保中学校校庭遺跡	不明	散布地	55	石原御遺跡	縄文時代中期	散布地
8	正原1号跡	縄文時代	散布地	56	大崩田形埴遺跡	縄文時代中期	散布地
9	正原2号跡	縄文時代	散布地	57	岩下道跡	縄文時代中期	散布地
10	人日山遺跡	縄文時代早・前・中期	散布地	58	指平遺跡	縄文時代中期	散布地
11	人日山遺跡	縄文時代中期	散布地	59	浅利1号跡	奈良・平安時代	散布地
12	木ノ井遺跡	縄文時代中・後期	散布地	60	浅利2号道跡	縄文時代	散布地
13	クダリ遺跡	縄文時代早・中期	散布地	61	浅利平石道跡	縄文時代	散布地
14	Y字印中食遺跡	縄文時代早・中期	散布地	62	大志木敷遺跡	縄文時代中・後期	散布地
15	Y字印山城	山城		63	大志木道跡	縄文時代中・後期	散布地
16	円通寺跡	平安時代、中期	寺院	64	稻ノ木道跡	縄文時代中・後期	散布地
17	大堤遺跡	縄文時代前・中期	散布地	65	孝道1号跡	縄文時代前、平安時代	集落
18	花輪寺跡	縄文時代	散布地	66	孝道2号跡	縄文時代前	集落
19	寺尾2号跡	縄文時代早・中・後・前期	集落	67	寺床遺跡	中世	地下式 坑道型
20	西知多1号跡	縄文時代中期	散布地	68	芝草原遺跡	縄文時代、平安時代、中世	集落
21	東知多1号跡	縄文時代中期	散布地	69	佐佐母御堂空道跡	中世	城郭跡
22	東知多2号跡	縄文時代中期	散布地	70	伊豆の島C道跡	縄文時代中期	散布地
23	寺原1号跡	縄文時代中期	散布地	71	梅原御遺跡	縄文時代中・後期	散布地
24	東口1号跡	縄文時代中期	散布地	72	中川根道跡	縄文時代早・前・中期	散布地
25	和田原遺跡	縄文時代中期	散布地	73	梅久久道跡	縄文時代中期	散布地
26	下鳥原遺跡	縄文時代前・中・後期	散布地	74	伊豆の島B道跡	縄文時代	散布地
27	八幡原遺跡	縄文時代中期	散布地	75	伊豆の島A道跡	縄文時代早・前・中・後期	散布地
28	八幡1号跡	縄文時代中期	散布地	76	小佐野道跡	縄文時代中期	散布地
29	おゆの木ノ道跡	縄文時代中期	散布地	77	浅ノ木道跡	縄文時代中期	散布地
30	人日山原遺跡	縄文時代、春秋時代、平安時代	集落	78	疋津神社	縄文時代中期	散布地
31	猿鳴中原遺跡	集落		79	原平道跡	縄文時代前・中・後期	集落
32	栗原道跡	散布地		80	原平1号跡	縄文時代早・後期、奈良・平安	集落
33	鏡ノ原道跡	散布地		81	西ノ上B道跡	古墳?	
34	大神神跡	縄文時代後期	散布地	82	西ノ上A道跡	散布地	
35	四本木道跡	縄文時代中期	散布地	83	佐久間道跡	縄文時代早期	土坑型
36	柳山道跡	縄文時代後期	散布地	84	吉ノ原道跡	縄文時代中期	散布地
37	丹後鬼敷(窮治鬼敷)	中世	宿敷?	85	前立原鬼敷遺跡	古墳	
38	延命寺道跡	縄文時代	集落	86	坂口山墳	古墳	
39	強瀬原古墳	古墳時代	古墳	87	坂郷1号跡	縄文時代後期	散布地
40	御手原道跡	散布地		88	坂郷2号跡	縄文時代後期	散布地
41	内須道跡	縄文時代	集落	89	坂郷3号跡	縄文時代後期	散布地
42	強瀬原の神古墳	古墳時代	古墳	90	冠塚1号跡	縄文時代中・後期	散布地
43	安婆寺東遺跡	縄文時代	散布地	91	辛ノ口道跡	縄文時代前・中期	散布地
44	中川根道跡	縄文時代	散布地	92	花吹用水道跡	近世	生産遺跡
45	御手原道跡	縄文時代早・前・中・後・前期、奈良・ 平安・鎌倉	散布地	93	大石道跡	縄文時代、平安時代	集落跡
46	安研尾遺跡	中世	城郭跡	94	堂寺道跡	縄文時代	集落跡
47	清水1号跡	縄文時代	散布地				
48	丸上1号跡	平安時代	散布地				

83 後林遺跡からは、9基の陥穴が検出されている。遺物は、貞岩製槍器と土師器の裏の底部片が2点出土している。遺構と遺物の関係を示す資料は確認されなかった。

古墳時代

市内には39 強瀬西畠古墳等数基の存在が知られているが現在墳丘、埋葬施設はほとんど残っていない。42 強瀬子の神古墳は、低位段丘と背後の丘陵とのあいだの斜面に築造されている。小さな塚を残し、横穴式石室は大きな自然礫で構築されており、平面は胴張りの長方形を呈し羨道と玄室の区別がない。長さ5m、幅1.2～1.6mを測る。奥壁に2mの高さからなる一枚の巨岩が使われている。側壁の場合と同様に、いわゆる裏込めの石積みはみられず、簡単な構築である。前部（入口部）から直刀、鉄鏃、須恵器が出土した。

平安時代

41 西畠遺跡は平安時代の竪穴住居が14軒検出された遺跡である。65 孝道1号跡からは竪穴住居跡4

軒と 60 基の土坑が検出されたが、土坑は縄文、平安時代以降と時期の特定は難しい。前述 45 御所遺跡からは、竪穴住居跡、土坑、ピット群が検出された。遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器の他に、石杵には水銀朱および金が付着していて金メッキ作業に使用されたと考えられている。また、カマド内から雑穀類の炭化種実、魚骨、鳥類、哺乳類の骨が検出された。

中世

16 円通寺跡は修驗道の名刹と知られている。行基伝説が残る廃寺である。前述した 45 御所遺跡からは水田等に利用された平地造成面や土坑ピットが検出され陶磁器、渡来鏡が出土している。68 芝草遺跡は竪穴遺構 1 基と地下式土坑 5 基が検出された遺跡で、竪穴遺構からは「元祐通寶」「熙寧元寶」「咸平元寶」などの北宋錢が出土している。

第3節 大月遺跡の調査経過（第4図・表2）

「調査」としては 1 次から 10 次および今回の調査（11 次）の計 11 回にわたって行われているが、その端緒は、明治 34(1901) 年の県立都留中学校（現県立都留高校）建設当時に石棒の先端が出土した事から始まる。大正 7(1918) 年には理科学教室を築造中多くの縄文土器が出土し、深鉢は旧東京帝国大学人類学教室（現東京大学）に持ち込まれた結果、研究者の注目を集め発掘調査の必要性が指摘され始めた。そして、以下に示すような調査が行われた。

第1次調査（昭和 2（1927）年）

石塚末吉氏が富士山の噴出物調査時に遺跡の記録を行った。幅約 10 m・長さ 50 m、深さ 2 m におよぶ溝を東西に掘っている。遺構は無く、調査区西城で石器や縄文土器が出土した。中でも 3 つの深鉢は完形に近く、1 点は底部穿孔であとの 2 点は重ね合わせであり、出土状態から土坑に 2 基の埋甕を配した土坑墓の様相を窺わせる。

第2次調査（昭和 3（1928）年）

遺構が初めて確認・記載された。石門炉をもつ 3 基の竪穴住居で、1・2 号住居跡の間には大きめの礫数個を 1 m² に敷きつめた敷石（配石遺構）が確認されその周辺には木炭の包含があった。3 号住居跡は、2 号住居跡より 30 m 余り離れていて炉を中心にして 6 m² に扁平な川原石や板状の安山岩による敷石が残る。炉はいずれも長方形又は略正方形に四方とも石で囲われている。遺物は土器・石器が多く出土しているが、中でも、敷石住居の下部から高さ 5.4 cm の深鉢が出土している。

第3次調査（昭和 50（1975）年）

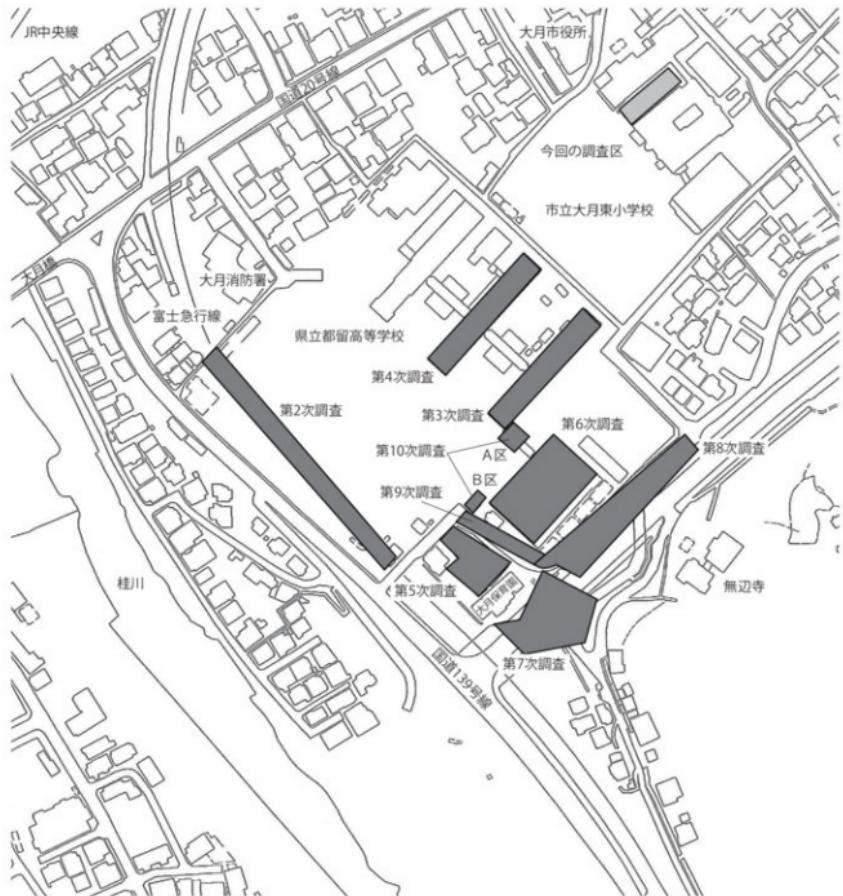
現在の都留高校の校舎南館にある。縄文時代の竪穴住居跡 2 軒、遺物集中域 1 箇所、奈良時代の住居跡 2 軒、土坑 4 基が検出された。1 号住居跡は隅丸方形で石門炉を持つ。遺物は石器と縄文時代中期後半（加曾利 E、曾利）の土器が多く出土している。2 号住居跡は遺物と焼土のみが検出された。3・4 号住居跡は、隅丸方形でカマドを持つ。遺物は土師器・須恵器、鉄製品が出土している。

第4次調査（昭和 52（1977）年）

都留高校校舎改築工事に伴い校舎中館部分の調査が行われた。遺構は、平安時代の竪穴住居跡 2 軒と溝状遺構 1 条、土坑 1 基が検出された。住居跡はカマドが構築されている。1 号住居跡から土師器の長胴甕・胴張甕の 2 点が出土している。

第5次調査（平成元（1989）年）

大月バイパス建設による大月保育園の移転改築に伴い調査が行われた。縄文時代後期の住居跡 1 軒、敷石住居跡 1 軒、土坑 3 基、平安時代の住居跡 1 軒、配石遺構 1 基、土坑 7 基、環状遺構 1 基が検出された。



第4図 大月遺跡の過去の調査

第6次調査（平成6・7（1994・1995）年）

体育館老朽化に伴う改築工事に伴い調査が行われた。都留高校のプール、テニスコート、ハンドボールコートの一部が範囲である。縄文時代中期の住居跡1軒、敷石住居跡6軒、石圓炉4基の計11軒、配石造構10基、磨石や小円礫を用いた特殊配石造構1基、集石2基、土坑5基、平安時代以降の溝状造構2条、土坑75基（掘立柱建物跡含む）が検出されている。遺物は、加曾利EIV式と曾利V式土器はじめ多くの石器が出土している。

第7・8次調査（平成7・8（1995・1996）年）

大月バイパス建設に伴い調査が行われた。7次調査は4区に、8次調査は3区に分け調査された。

表2 大月遺跡の調査成果

調査年次	調査年月日	面積(m ²)	時期	遺構名	検出数	時期・遺物・特記事項	調査者・調査主体
1次調査	昭和2年		縄文時代	—	—	陶器、石器	石塚末吉(都留中学校)
2次調査	昭和3年		縄文時代	縄六住居跡 配石遺構	3 1	陶器	仁利義男
3次調査	昭和50年		縄文時代 奈良時代	縄六住居跡 遺物集団区 縄六住居跡	2 1 2	石器、骨器・ 加曾利E式	
				土坑	4	陶器、土師器、 器製品	山梨県教育委員会
				縄六住居跡 數石住居跡 土坑	2 1 1	土師器 (長颈瓶、胴張甕)	山梨県教育委員会
4次調査	昭和52年		平安時代	清灰道構	1		
				土坑	1		
				數石住居跡 數石住居跡 土坑	1 1 1	縄文時代後期	
5次調査	平成元年		縄文時代 平安時代	数石住居跡 配石遺構	3 10	骨利V、加曾利IV、 跡名寺	
				石井跡	4		
				特異配石遺構	1	骨利IV～V、加曾利E IV、堀之内式、磨製石斧、 石皿、磨石、ドリル、 石縫	山梨県教育委員会
6次調査	平成6～7年	約3200	縄文時代	生石遺構 土坑	2 5	骨利V、堀之内式、磨製石斧、 石皿、多孔石	
				溝灰道構	2	土師器环、甕、須恵 器高台付环、蓋、甕、 人頭陶器	
				土坑(組立柱建物跡を含む)	75	陶水器、土師器	
7次調査	IA区	約356	縄文	大規模な配石遺構 土坑 埴生遺構 遺構外出土遺物	1 13 6 1		
				土坑	14		
				奈良・平安 溝灰道構 ピット	1 47		
				土坑	35		
				溝灰道構 ピット	4 75		
	IB区	約125	縄文	土坑 埴生遺構 生石遺構 ピット	1 1 3 27	土器、工具、土製円錐、 丸玉、ミニチュア土器、 口秤、土製蓋、堀之内式、 骨利B、跡名寺、堀之内、 加曾利B	
				組立柱建物跡	1		
				土坑	38		
				溝灰道構 ピット	3 81		
				土坑	38		
8次調査	A区	約26		古墳(円墳)	1	主体部・直刀片	
	B区	約484					
	C区	約642					山梨県教育委員会
		約59		縄六住居跡	1	平安時代土師器环	

調査年次		調査年月日		面積(m ²)	時期	遺構名	検出数	時期・遺物・特記事項	調査者・調査主体
9次調査		平成8年	6月～7月						大田市教育委員会
10次調査	A区 平成8～9年 12月1日～ 1月29日			約50	縫穴住居跡		2	1号住居跡～深跡～骨 面Ⅲ～IV式、2号住居 跡～深跡（理窓）、石 器～骨片～Ⅳ式	山梨県教育委員会
						配石遺構	1	土器1点～縄文時代 中期未	
						土坑	3	2号土坑～縄文時代Ⅱ 期未～後期、3号土 坑～骨片～Ⅳ式	
					溝状遺構 埴輪範 ビット	溝状遺構	1	直立柱	
						埴輪範	1	石頭、陶石	
						ビット	26		
	B区 平成9年 6月9日～ 7月9日			約40	土坑	土坑	1		昭和測量株式会社
						溝状遺構	1		
						ビット	5		
					他の遺構	4			
11次調査	大月東 小学校	平成26年	6月9日～ 7月9日	250	土坑（溝状遺構）	2			
					ビット	106			

7次調査IA区は縄文時代の配石遺構、焼土遺構6ヶ所、土坑13基、奈良・平安時代は土坑14基、溝状遺構1条、ビット47ヶ所、中世は土坑35基、溝状遺構4条、ビット75ヶ所、IIA区は縄文時代の敷石住居1軒、集石遺構3ヶ所、焼土遺構9ヶ所、土坑38基、ビット27ヶ所、古代、中世は掘立柱建物跡1棟、溝状遺構3条、ビット81ヶ所が検出された。

8次調査は、縄文時代の土坑17基、集石遺構3基、焼土遺構2ヶ所、ビット29ヶ所、近世以降で配石遺構3基、ビット列が検出された。縄文時代中期末から後期の遺構と考えられる。近世の遺構は、ビット列と配石遺構3ヶ所が検出され寛永通宝1点が出土している。遺物は、縄文時代の遺構が少ないにも関わらず多量の遺物が集中して出土しており、その出土状況も遺構に伴わない状況を示しており廃棄場としての性格が想定されている。

第9次調査（平成8（1996）年）

大田市教育委員会により5次と6次調査地の中間地点の調査が行われた。調査報告はまだされていない。

第10次調査（平成8・9（1996・1997）年）

県立都留高等学校の渡り廊下（A区）およびポンプ室（B区）設置のために調査が行われた。A区では縄文時代中期末の縫穴住居跡2軒、土坑3基、焼土遺構1基、配石遺構1基、ビット26基、平安時代以降の溝状遺構1条、B区は、時期不明の土坑、溝状遺構が各1基、ビット5基が検出された。遺物は縄文時代中期末の土器を中心に出土している。

第3章 調査の方法

調査に先立って、池、藤棚等の構造物の撤去を行った。撤去後、ガードフェンスを設置し、重機による掘削を行った。発生土および遺構掘削による堆土は搬出しないため、調査区を半分に分け（北調査区・南調査区）片方を堆土置場とするスイッチバック方式で行った。北調査区から調査を開始したが、南調査区においては表土掘削中にグラウンド照明の電圧線が調査区を横断して検出され、尚且つ使用中という事もあり掘削を中止し、掘削した西側1／3の調査を行い東側2／3はマウンド状に残し保全した。重機による表土掘削後、人力による遺物包含層掘削および遺構の検出作業を行った。

遺構の計測および土層断面・遺物出土状況図の写真測量は、CUBIC 社製トータルステーションシステム電子平板「遺構くん」を使用した。「遺構くん」により作成した図面および補正した写真測量写真はadobe社製「illustratorCS6」により全体図、個別図、土層断面図を作成した。

出土した遺物は、表土、遺物包含層および遺構毎に取り上げた。遺構に係る遺物はトータルステーションシステムにより位置を計測し取り上げを行った。

使用システム

トータルステーション TOPCON SOKIA CX-105

電子平板 Panasonic TOUGHBOOK CF-19

遺構実測支援ソフト CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応

第4章 調査の概要

第1節 検出状況（第5図）

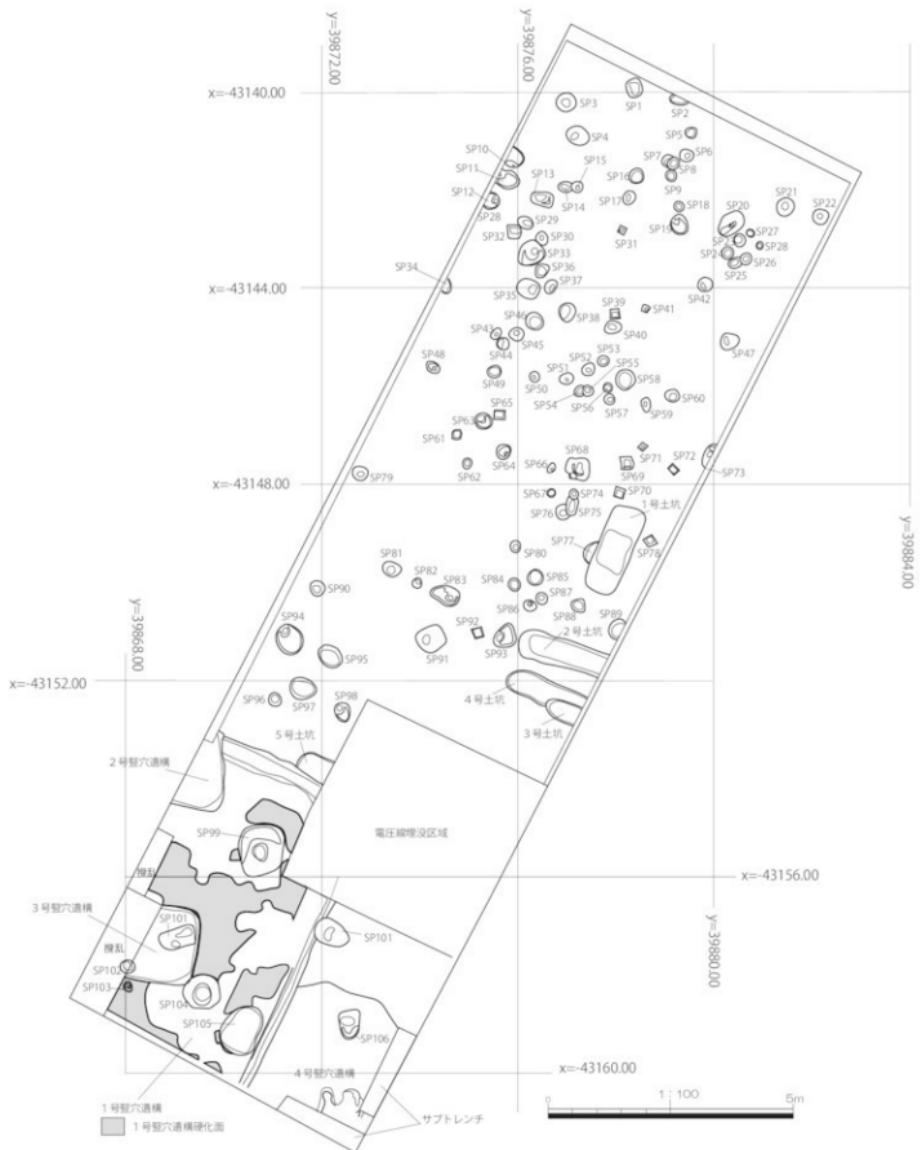
今回の調査では、竪穴遺構が4基、土坑（2～4号土坑は溝状遺構の先端部の可能性がある）5基、ビット106基が検出された。検出状況は、北調査区ではビットと南調査区との境界付近で土坑が1基、南調査区では竪穴遺構、土坑（溝状遺構）、ビットが検出された。調査区が狭いため断定は出来ないが区域によって遺構の性格が分かれた。

第2節 土層断面（第6図）

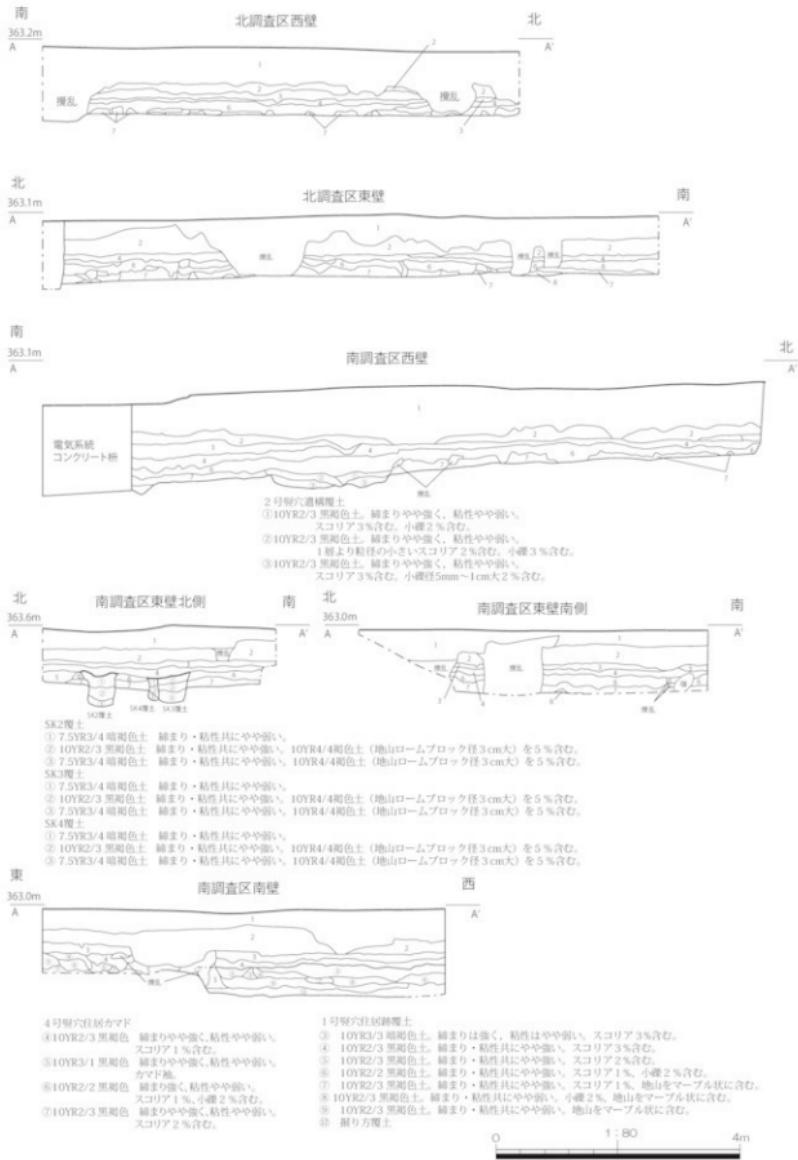
調査区は、以前校舎が建設されていた事や、さらに調査時は中庭として池、藤棚等の構造物があつたため擾乱を受けている事が想定されたが、上層および南西側は、地山層近くまで擾乱を受けていた影響は少なかった。

基本層序を示す。

- 1 10YR3/4 暗褐色土 表土
- 2 10YR4/6 褐色土 締まり強く、粘性やや強い。橙色粒2%。客土
- 3 7.5YR5/4 にぶい褐色土 締まり強く、粘性やや強い。
- 4 7.5YR2/2 黒褐色土 締まり強く、粘性やや強い。橙色粒3%、小礫径5mm～1cm 大3%。
遺物包含層
- 5 7.5YR3/2 黒褐色土 締まり・粘性共にやや強い。橙色粒2%、小礫1%。地山マーブル状に含む。
- 6 7.5YR3/4 暗褐色土 締まり・粘性共にやや強い。橙色粒1%、小礫1%。ローム漸移層。
- 7 7.5YR4/4 褐色土 締まり強く、粘性やや強い。地山ローム層。



第5図 大月遺跡遺構分布図



第6図 土層断面図

第5章 検出遺構

第1節 竪穴遺構（第7～12図）

南調査区から4基が検出された。1号及び4号は床やカマド等の残存状況から住居跡と見られるが、2・3号は住居跡と断定することができないことから、ここでは「竪穴」という名称で一括して報告する。

①1号竪穴（住居跡）（S I 1）（第7・8図）

南調査区で検出された。住居跡と思われる。検出された規模は、南北方向 6.36m、東西方向 4.00m、深さは 0.30m を測る。主軸（全体を検出出来ないためここでは南北方向）は N-26°-E を指している。調査区の南および西側の壁には床の硬化面が確認される事から調査区外に伸びていると思われる。上層で搅乱を受けている事、調査区が狭い事、住居跡の覆土が見分けにくい事もあり地山のローム層での検出となった。2号・3号竪穴に切られている。住居施設としては周溝および主柱穴と思われる2基のピットが検出された。

主柱穴のうち SP99 は長軸 1.02m、短軸 0.88m、深さは 0.58m を測る。底に「あたり」が残る。SP104 は長軸 0.76m、短軸 0.69m、深さは 0.53m を測る。

②2号竪穴（S I 2）（第10図）

南調査区で検出された。検出された規模は、長軸 1.67m、短軸 1.00m 深さは 0.24m を測る。主軸は N-3°-W を指している。調査区壁面に住居の覆土の土層断面が検出されており調査区外に伸びていると思われる。周溝および柱穴は検出されない。

③3号竪穴（S I 3）（第10図）

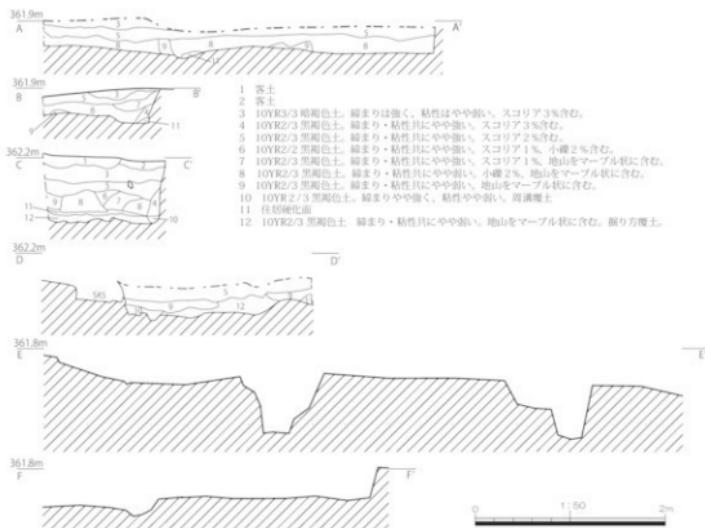
南調査区で検出された。検出された規模は、長軸 1.59m、短軸 1.31m 深さは 0.17m を測る。主軸は N-7.5°-E を指している。調査区壁面に住居の覆土の土層断面が検出されており調査区外に伸びていると思われる。周溝および柱穴は検出されない。

④4号竪穴（住居跡）（S I 4）（第12図）

南調査区で検出された。カマドが検出されたため住居跡とした。カマドの構造は、袖石と思われる礫と、袖と思われる粘土が残存していたがいずれも本来の位置・形状を留めていない。燃焼部と思われる位置にはわずかだが灰が検出された。カマドの位置から住居の平面形は東および南に伸びていると思われる。カマドの袖の下から掘り方と思われる竪穴が検出された。周辺で検出されたピットは、位置関係から SP100・105・106 が関連する遺構の可能性がある。1号と4号の新旧関係は、検出された状況から1号竪穴が4号竪穴を切っていると思われる。



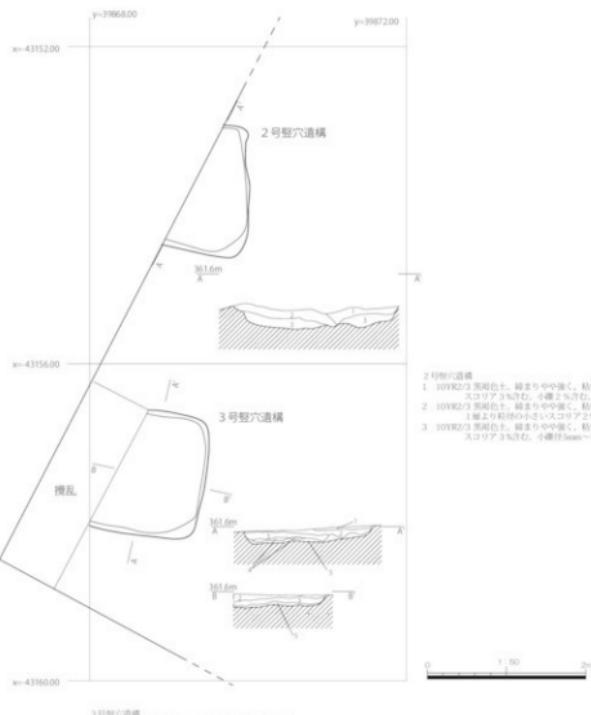
第7図 1号竖穴遺構



第8図 1号竪穴遺構土層断面・エレベーション



第9図 1号竪穴遺構S P 99 土層断面



- 2号竖穴遺構
- 10YR2/2 黒褐色土。縫まりやや強く、粘性やや弱い。
スコリア3%含む。小礫2%含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土。縫まりやや強く、粘性やや弱い。
スコリア2%含む。小礫1%含む。
 - 10YR2/3 黒褐色土。縫まりやや強く、粘性やや弱い。
スコリア3%含む。小礫15mm~1cm大2%含む。
- 3号竖穴遺構
- 10YR2/2 黒褐色土。縫まりやや強く、粘性やや弱い。
スコリア3%含む。小礫2%含む。
 - 10YR2/3 黑褐色土。縫まりやや強く、粘性やや弱い。
スコリア2%含む。小礫1%含む。
 - 10YR2/3 黑褐色土。縫まりやや強く、粘性やや弱い。
スコリア1%含む。
 - 10YR2/3 黑褐色土。縫まりやや強く、粘性やや弱い。
 - 10YR2/3 黑褐色土。縫まりやや強く、粘性やや弱い。
地山をマーブル状にむける。

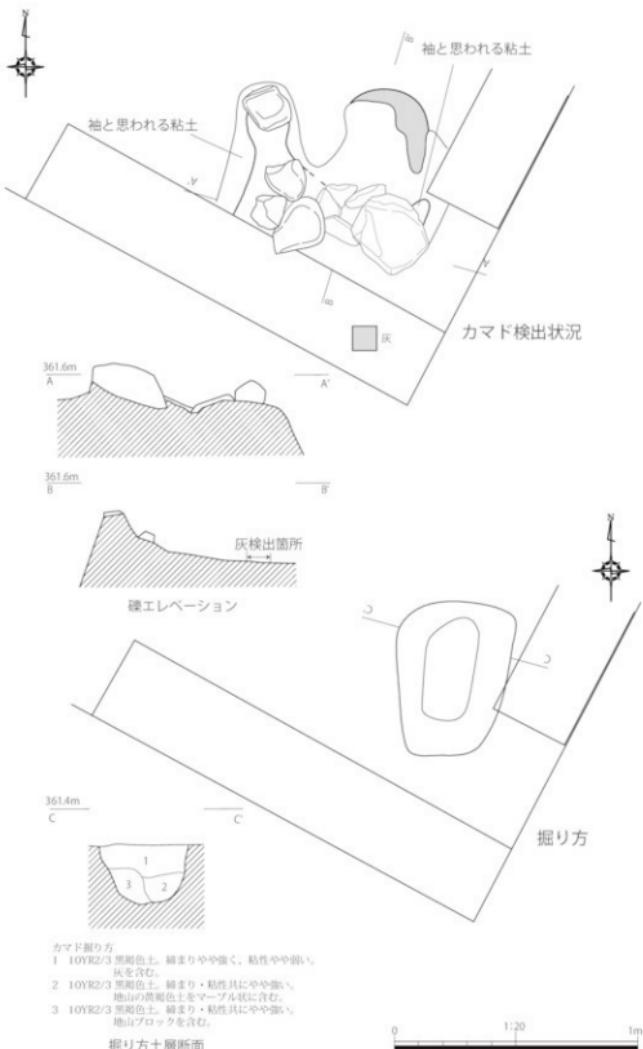
第10図 2・3号竖穴遺構



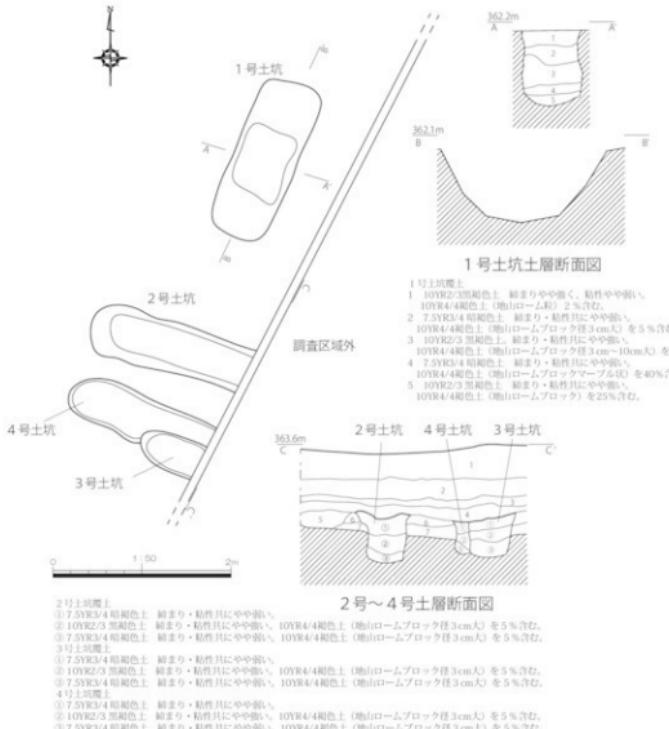
第 11 図 4 号竪穴遺構

表 3 竪穴遺構計測表

遺構名	地点	平面形	規模 m △ (現存値)					主軸方向	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ	周溝幅	周溝深さ			
1号竪穴	南調査区	楕円方形	(6.36)	(4.00)	0.30	0.25	0.08	N-26°-E	SI1<SI2, SI3	調査区壁面に床の硬化面が検出される事から調査区外に伸びている。
2号竪穴	南調査区	楕円方形	(1.67)	(1.00)	0.24	-	-	N-3°-W	SI1<SI2, SI3	住居内施設は検出されない。
3号竪穴	南調査区	楕円方形	(1.59)	(1.31)	0.17	-	-	N-7.5°-E	SI1<SI2, SI3	住居内施設は検出されない。
4号竪穴	南調査区	-	-	-	-	-	-	-	-	カマドあり



第 12 図 4 号竪穴遺構カマド



第13図 1号～5号土坑

表4 土坑計測表

遺構名	地点	平面形	規模 cm (壁面での深さ)			長軸方位	切り合い	備考
			長軸	短軸	深さ			
SK01	北調査区	長い楕丸方形	186	71	85	N-22°-E		
SK02	南調査区	—	(180)	(71)	31 (50)	N-73°-W		溝状遺構の可能性有り
SK03	南調査区	—	(70)	(43)	16 (43)	N-66°-W	SK3-SK4	溝状遺構の可能性有り
SK04	南調査区	—	(81)	(76)	15 (36)	N-63°-W	SK4-SK3	溝状遺構の可能性有り
SK05	南調査区	—	(67)	(52)		N-65°-W	SK5-SH	溝状遺構の可能性有り

第2節 土坑（第13図）

5基検出された。2号～5号は一部の検出のみでいずれも調査区域外にのびており、2号から4号はその形状から、大月遺跡7・8次調査で検出された溝状遺構と同じ性格を持つ溝の先端部の可能性がある。

①号土坑（SK1）

北調査区で検出された。規模は、長軸 1.86m、短軸 0.71m、深さは 0.85m を測る。長軸の方向は N-22°-E を指している。覆土は、ロームブロックの含有量が多い層、少ない層の互層になっている。遺物は出土していない。

②号土坑（SK2）

南調査区で検出された。東側は調査区外に伸びている。調査区内で検出された規模は、長軸 1.80m、短軸 0.71m、深さは 0.31m を測る。調査区壁面で土坑の断面が検出され、第4層から掘り込まれている事が分かる。壁面で検出された深さは 0.50m である。長軸の方向は N-73°-W を指している。調査区内においては3号、4号土坑と主軸の方向はほぼ一致している。

③号土坑（SK3）

南調査区で検出された。東側は調査区外に伸びている。調査区内で検出された規模は、長軸 0.70m、短軸 0.43m、深さは 0.16m を測る。調査区壁面で土坑の断面が検出され、第4層から掘り込まれている事が分かる。壁面で検出された深さは 0.43m である。長軸の方向は N-66°-W を指している。4号土坑を切っている。

④号土坑（SK4）

南調査区で検出された。東側は調査区外に伸びている。調査区内で検出された規模は、長軸 0.81m、短軸 0.76m、深さは 0.15m を測る。調査区壁面で土坑の断面が検出され、第4層から掘り込まれている事が分かる。壁面で検出された深さは 0.36m である。長軸の方向は N-63°-W を指している。3号土坑に切られている。

⑤号土坑（SK5）

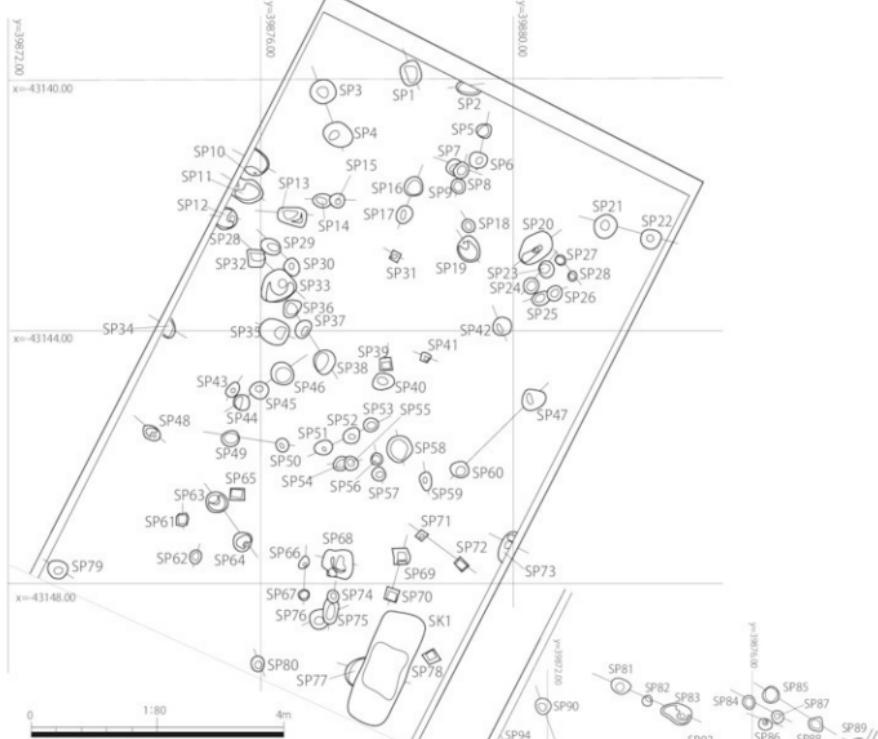
南調査区で検出された。南側は1号竪穴住居跡に切られており、東側は電圧線のマウンドの下に延びている。調査区内で検出された規模は、長軸 0.67m、短軸 0.52m、深さ 0.15m を測る。長軸の方向は N-65°-E を指している。

第3節 ピット（第14・15図、表5）

106基検出された。単層のピットの覆土に関しては、

- ①黒褐色土
- ②黒褐色土にロームブロックが混じる
- ③暗褐色土

の3種類に分類できる。形状は、円形、不整形、方形（四角形）に分類される。覆土別や形状等で掘立柱建物跡や柱列の構成を検討してみたが確実な組合せは見つからなかった。平面図、エレベーション図、ピット計測表を示す。



*ビットを通る横線は断面線を示す。断面図の向きは西・南方向から見て向かって左側がAの位置となる。

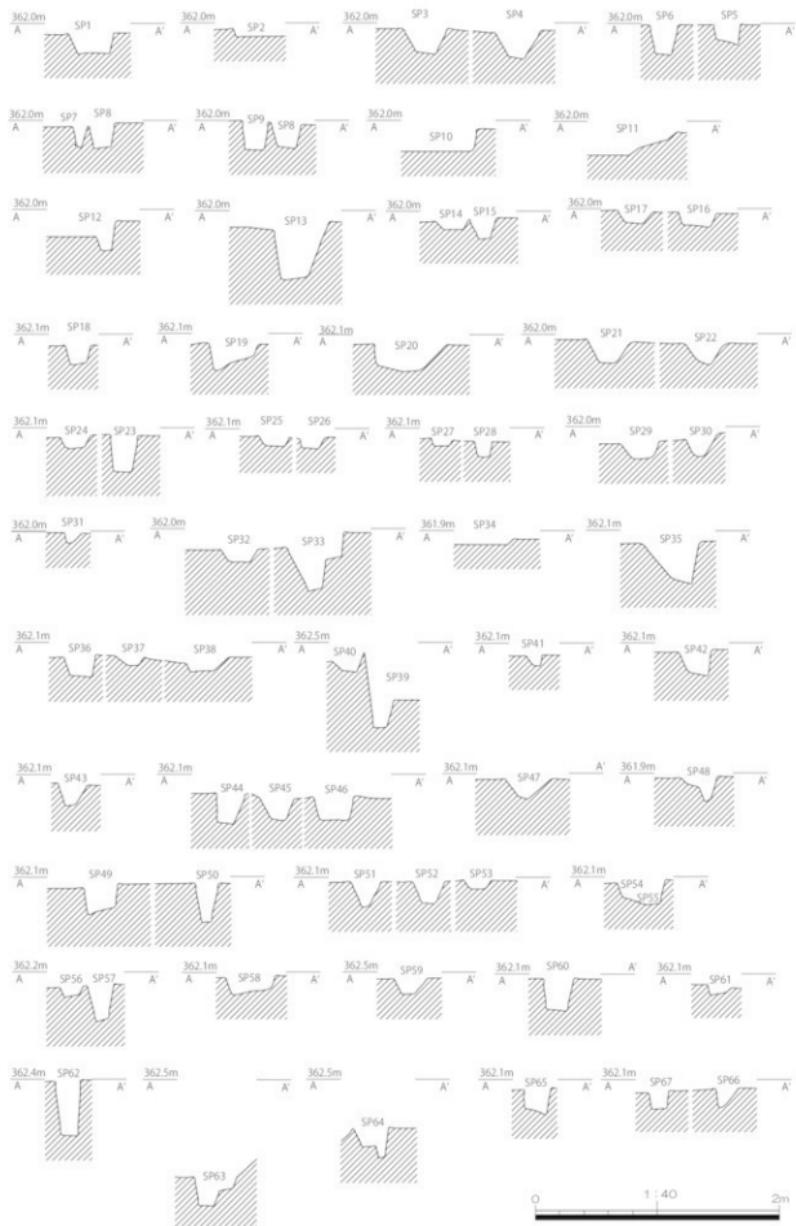
*複数のビットにまたがる断面線は組み合わせを示すものではない。

第14図 北調査区ビット分布図

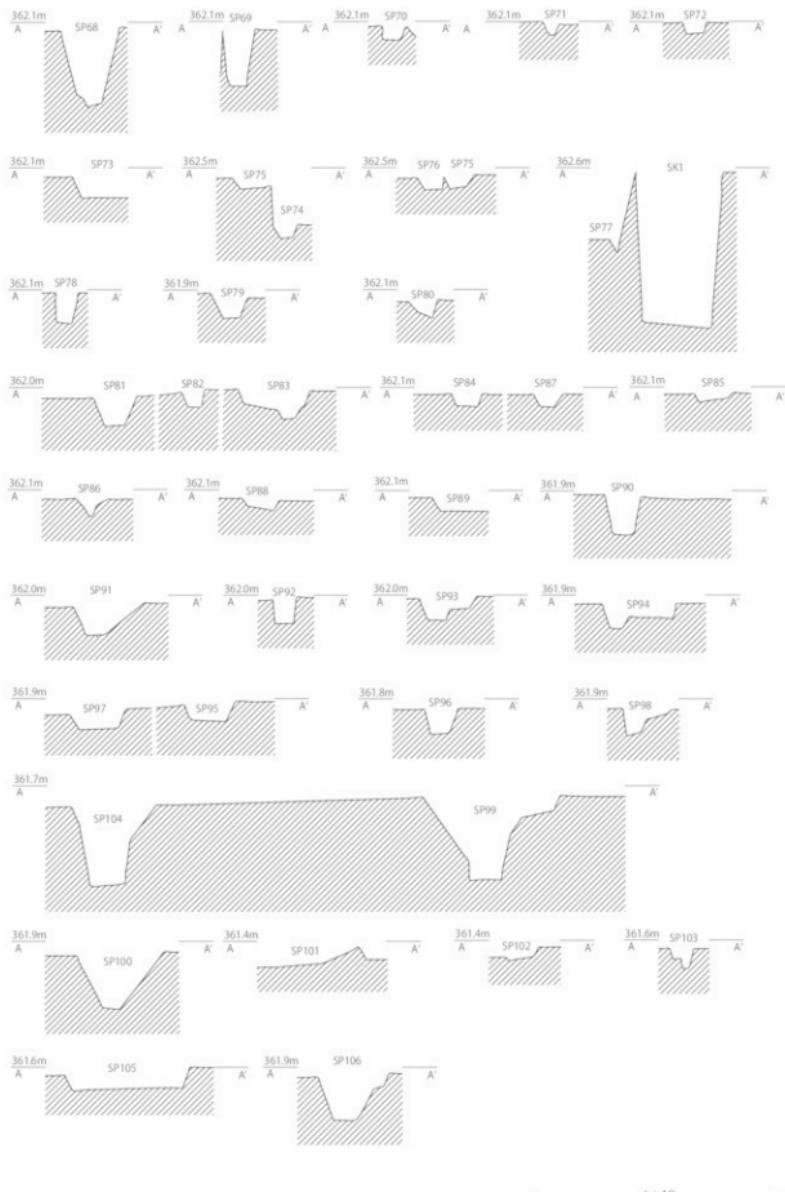
*ビットを通る横線は断面線を示す。断面図の向きは西・南方向から見て向かって左側がAの位置となる。

*複数のビットにまたがる断面線は組み合わせを示すものではない。

第15図 南調査区ビット分布図



第16図 ピットエレベーション（1）



第 17 図 ピットエレベーション (2)

表5 ピット計測表

遺構名	地点	平面形	規模 cm			覆土	備考
			長軸	短軸	深さ		
SP1	北調査区	不整形	39	32	15	②	
SP2	北調査区	不整形	40	16	8	②	
SP3	北調査区	円形	41	37	20	①	
SP4	北調査区	楕円形	48	39	21	①	
SP5	北調査区	不整形	26	23	16	①	
SP6	北調査区	円形	28	26	24	①	
SP7	北調査区		(26)	(26)	18	②	
SP8	北調査区	楕円形	26	22	19	①	
SP9	北調査区	楕円形	25	22	23	①	
SP10	北調査区		42	40	19	②	
SP11	北調査区		55	39	18	②	
SP12	北調査区		40	36	24	②	
SP13	北調査区	不整形	47	30	46	②	
SP14	北調査区	楕円形	26	23	8	③	
SP15	北調査区	円形	23	23	17	②	
SP16	北調査区	楕円形	31	30	10	③	
SP17	北調査区	楕円形	28	25	9	③	
SP18	北調査区	円形	21	20	15	①	
SP19	北調査区	不整形	41	34	22	③	
SP20	北調査区	不整形	60	41	23	②	
SP21	北調査区	円形	39	35	18	②	
SP22	北調査区	円形	31	31	19	②	
SP23	北調査区	円形	28	24	30	①	
SP24	北調査区	円形	26	24	10	②	
SP25	北調査区	楕円形	25	20	8	③	
SP26	北調査区	円形	23	23	9	③	
SP27	北調査区	円形	16	14	5	①	
SP28	北調査区	円形	14	14	11	①	
SP29	北調査区	楕円形	33	26	14	②	
SP30	北調査区	不整形	27	23	18	②	
SP31	北調査区	方形	15	15	8	②	
SP32	北調査区	方形	29	25	10	②	
SP33	北調査区	不整形	56	48	46	②	
SP34	北調査区		29	14	6	②	
SP35	北調査区	不整形	48	34	34	③	
SP36	北調査区	不整形	34	26	17	②	
SP37	北調査区	楕円形	31	23	8	②	
SP38	北調査区	不整形	38	35	10	②	
SP39	北調査区	方形	20	20	23	③	
SP40	北調査区	不整形	35	28	16	②	
SP41	北調査区	方形	16	15	8	①	
SP42	北調査区	円形	30	29	21	①	
SP43	北調査区	楕円形	25	18	18	②	
SP44	北調査区	円形	26	24	25	②	
SP45	北調査区	円形	28	28	21	②	
SP46	北調査区	円形	37	34	18	①	
SP47	北調査区	不整形	38	33	16	③	
SP48	北調査区	楕円形	31	21	20	②	
SP49	北調査区	円形	27	25	25	②	
SP50	北調査区	円形	22	19	32	①	
SP51	北調査区	楕円形	30	22	21	②	
SP52	北調査区	楕円形	28	24	19	②	
SP53	北調査区	円形	23	21	8	②	
SP54	北調査区		23	20	17	③	
SP55	北調査区	楕円形	22	20	20	②	
SP56	北調査区	円形	19	19	9	②	
SP57	北調査区	円形	21	21	30	②	
SP58	北調査区	円形	40	40	14	②	
SP59	北調査区	不整形	29	18	13	②	
遺構名	地点	平面形	規模 cm			覆土	備考
			長軸	短軸	深さ		
SP60	北調査区	椭円形	30	26	27	①	
SP61	北調査区	方形	20	20	9	①	
SP62	北調査区	椭円形	23	18	46	②	
SP63	北調査区	円形	34	33	23	②	
SP64	北調査区	不整形	30	30	24	①	
SP65	北調査区	方形	23	19	22	①	
SP66	北調査区	不整形	21	14	16	③	
SP67	北調査区	円形	18	17	14	①	
SP68	北調査区	不整形	48	44	64	②	
SP69	北調査区	方形	26	26	47	②	
SP70	北調査区	方形	21	20	11	①	
SP71	北調査区	方形	15	14	10	①	
SP72	北調査区	方形	20	14	9	①	
SP73	北調査区		53	27	16	③	
SP74	北調査区	椭円形	20	17	11	②	
SP75	北調査区		32	24	10	②	
SP76	北調査区		31	22	10	①	
SP77	北調査区		48	27	62	②	
SP78	北調査区	方形	20	20	24	①	
SP79	北調査区	円形	31	30	21	③	
SP80	北調査区	椭円形	23	21	15	②	
SP81	南調査区	不整形	37	28	23	②	
SP82	南調査区	不整形	21	20	14	②	
SP83	南調査区	不整形	61	40	24	③	
SP84	南調査区	円形	25	24	12	③	
SP85	南調査区	円形	24	24	7	②	
SP86	南調査区	円形	42	40	14	①	
SP87	南調査区	円形	24	23	11	①	
SP88	南調査区	不整形	30	28	8	②	
SP89	南調査区		43	35	11	③	
SP90	南調査区	椭円形	31	29	32	②	
SP91	南調査区	不整形	58	51	24	③	
SP92	南調査区	方形	21	20	22	②	
SP93	南調査区	不整形	46	42	19	②	
SP94	南調査区	椭円形	54	29	21	①	
SP95	南調査区	椭円形	53	41	16	③	
SP96	南調査区	椭円形	27	25	20	①	
SP97	南調査区	不整形	54	44	15	①	
SP98	南調査区	不整形	41	32	21	③	
SP99	南調査区	不整形	102	88	58	③	1号壁穴遺構 柱穴。底面に「あたり」
SP100	南調査区	不整形	74	52	46	③	4号壁穴遺構
SP101	南調査区	不整形	75	39	16	①	
SP102	南調査区	円形	29	25	10	①	
SP103	南調査区	椭円形	21	16	16	①	
SP104	南調査区	不整形	76	69	53	③	1号壁穴遺構
SP105	南調査区	不整形	104	73	16	②	4号壁穴遺構
SP106	南調査区	不整形	59	43	38	②	4号壁穴遺構

覆土凡例

- ①黒褐色土
- ②黒褐色土にロームブロックが混じる。
- ③暗褐色土

第6章 出土した遺物

今回の調査では、北調査区はピット・土坑が検出され、南調査区は竪穴遺構、土坑、ピットが検出された。遺物は、竪穴遺構が検出された南調査区での出土である。

出土した遺物の種別は、土師器、須恵器、陶器、石製品である。土器は完形品が無くすべて破片である。縄文時代と思われる石器は出土しているが縄文土器は出土していない。以下遺構別に図示可能な遺物の実測図を示す。

1号竪穴遺構出土遺物（第19・20図）

1は壺の体部～底部である。底部から内湾して立ち上がる。外面は体部下半に斜位のヘラケズリ。底部は回転糸切り後中央部以外ほぼ全周をヘラケズリ。体部に黒色の痕跡があるが墨書きかどうかは断定できない。内面は体部および見込み部に暗文。赤色粒を微量含む。甲斐型土器で「県史編年」のⅢ期に属する。

2は壺の口縁部～体部下である。底部から内湾して立ち上がる。外面の体部は横位のヘラミガキ。内面は暗文。甲斐型土器で「県史編年」のⅢ期に属する。

3は土師器の甕の口縁部～頸部である。口縁部はやや湾曲しているがほぼ直線。頸部はくの字に強く外傾する。外面は横位のヘラナデ。内面は横位のヘラナデ。長石・石英・金雲母を微量含む。甲斐型土器。

4は土師器の甕の底部1/2～体部の接合部である。外面は全体的に摩耗しているため調整は不明瞭。底部に木葉痕。接合部はヨコナデ。内面は見込み部にヘラナデ、体部は横位のヘラナデ。黒色化している。長石・金雲母を含む。在地系土器。

5は土師器の甕の体部である。外面は縱位のハケメ。内面は横位のハケメ。相模型土器。

6は土師器の甕の体部である。外面は縱位のハケメ。内面は横位、斜位のハケメ。相模型土器。

7は土師器の甕の体部である。外面は縱位のハケメ。体部下に斜位のハケメ。内面は摩耗しているが横位のハケメ。甲斐型土器。

8は陶質土器の甕の口縁部である。口縁部は外湾して外に開き、口縁端部はやや外側に開きながら立ち上り段を作る。外面は全面に鉄釉。回転ヘラケズリ。内面は全面に鉄釉。

9は須恵器の甕の口縁部～頸部である。外湾しながら外に開き、口縁部でわずかに上方に立ち上がり段を作る。口縁端部は下方に屈曲し肥厚する。丸く收めている。断面が三角の突帯が付く。外面は口縁部、突帯先端以外に自然釉。内面は口縁部に自然釉、頸部に鉄釉。湖西産。

10は土師器の壺の口縁部である。わずかに外反しながら開き口縁端部でやや内側に立ち上がり段を作る。口縁端部を尖らす。外面はヨコナデ。内面は横位、斜位のハケメ。長石・石英・雲母を含む。武藏型か？

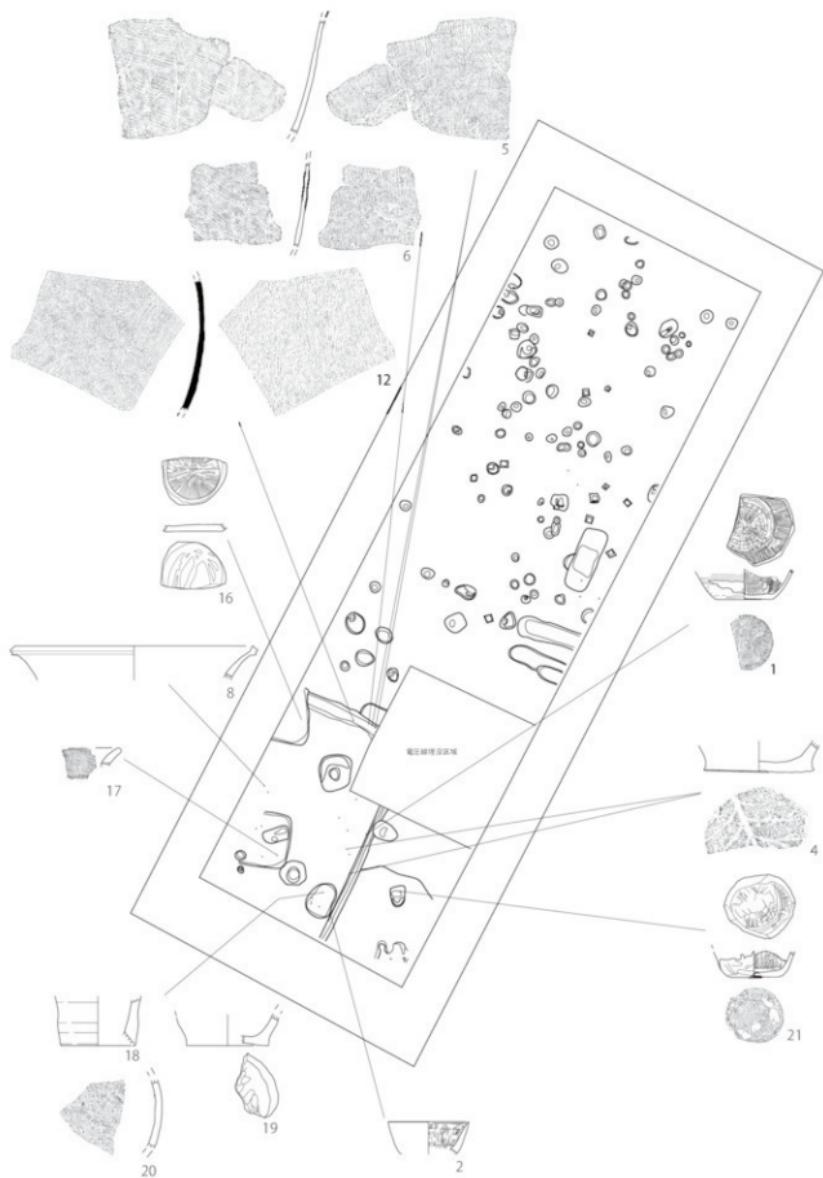
11は須恵器の壺の体部～底部である。外・内面共にロクロ。湖西産。

12は須恵器の甕の体部である。外面はハケメ、タタキ。内面は青海波紋、ケズリ。

13は陶質土器の壺の底部である。外面は回転ヘラケズリ後ケズリ。木葉痕が残る。高台部は体部成形後貼付けている。内面は見込み部中央に自然釉が残る。体部接合部はヘラケズリ。長石・金雲母を含む。

14は須恵器の壺の肩部～体部である。やや内湾しながら立ち上り肩部でくの字に屈曲する。外面は肩部に自然釉。ロクロ。内面はロクロ。湖西産。

15は土師器の甕の口縁部である。体部から外に直線的に開く。口縁端部を丸く收める。外面は横位のヘラナデ。内面はヨコナデ。長石・金雲母を含む。甲斐型土器。



第 18 図 遺物出土分布図

2号竪穴遺構出土遺物（第20図）

16は壺の底部である。外面は底部全面をヘラナデ、波状のヘラミガキ。外周はケズリ。内面は見込みに放射状の暗文。甲斐型土器で「県史編年」のⅢ期に属する。

3号竪穴遺構出土遺物（第20図）

17は土師器の甕の口縁部である。口縁部は短い。直線的に外に開き端部は丸く收める。外面はヨコナデ。内面は横位のヘラナデ。長石・金雲母を含む。甲斐型土器。

SP105出土遺物（第21図）

18は土師器の甕の体部～底部である。外面は摩耗しているが、わずかに縦位のハケメの痕跡が認められる。底部接合部はナデ。内面はヨコナデ。長石・金雲母・赤色粒・黒色粒を含む。在地系土器。

19は土師器の甕の底部1/5～体部である。外面はヨコナデ。底部の外周は未調整。中心部はケズリ。内面はヨコナデ。在地系土器。

20は土師器の甕の体部である。器形は球胴形。外面は斜位のハケメ後ヘラナデ。内面は摩耗、ナデ。長石を含む。駿東型土器。

SP106出土遺物（第21図）

21は土師器の壺の体部～底部である。外面は回転糸切り後に外周をヘラケズリ。底部と体部の接合部はヘラケズリにより稜をつくる。体部はミガキ。内面は見込み部に暗文。体部と底部の接合部にケズリによる溝。長石を含む。甲斐型土器で「県史編年」のⅢ期に属する。

以下は遺構外からの出土である。

22は土師器の甕の体部～底部である。外面は底部に木葉痕。体部は縦位のハケメ。底部と体部の接合部は未調整。内面の体部は横位のハケメ。見込み部はケズリ。調整が粗い。長石を含む。在地系土器。

23は土師器の甕の体部～底部である。外面の体部はヘラケズリ。底部はヘラケズリ。内面は横位、斜位のハケメ。長石・金雲母を含む。在地系土器。

24は土師器の甕の口縁部である。わずかに外湾して立ち上がる。口縁端部は先をやや尖らせる。外面はヨコナデ。内面はヨコナデ。長石・赤色粒・金雲母を含む。在地系土器。

25は須恵器の甕の体部である。外面は縦位のハケメ、タタキ。火服れあり。内面は同心円文の当具痕。ケズリ。湖西産。

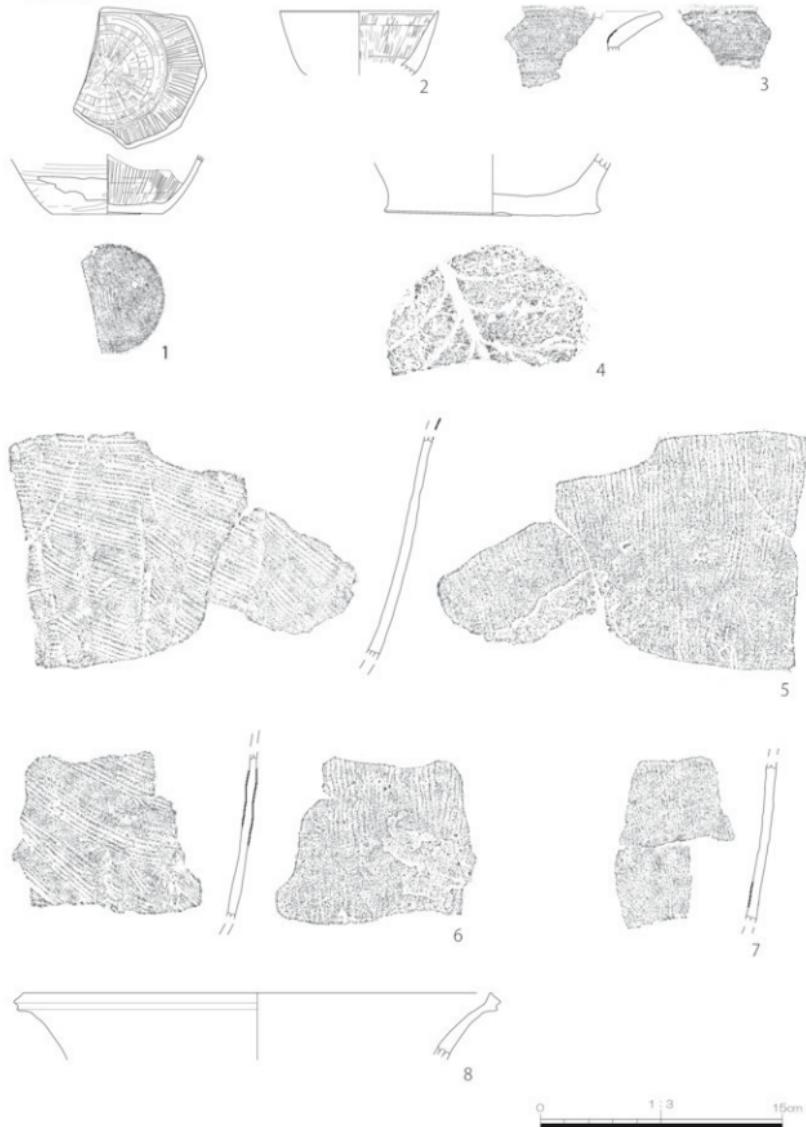
26は土師器の甕の口縁部～体部である。外に開き、口縁端部付近での字に湾曲する。端部は丸く收める。外面はヨコナデ。内面はヨコナデ。甲斐型土器。

石製品（第21図）

27は1号竪穴遺構から出土した凹石である。長さ6.5cm、幅5.0cm、厚さ3.1cm、重量は118.6gを測る。色調は褐灰。溶岩製である。

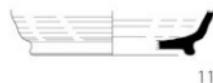
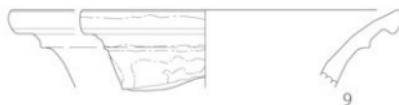
28は南調査区で出土した磨製石斧である。長さ6.7cm、幅3.8cm、厚さ1.7cm、重量は73.1gを測る。蛇紋岩製。

1号竖穴遺構出土遺物

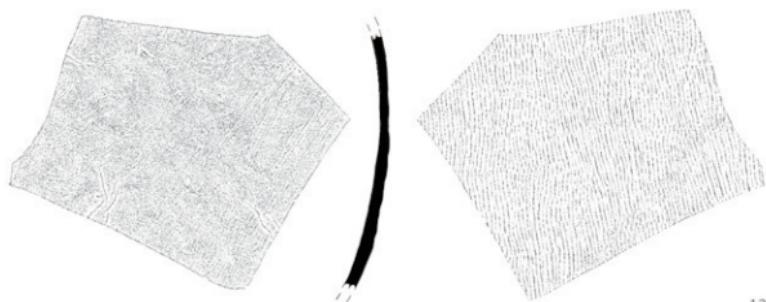


第19図 遺物実測図(1)

1号竪穴遺構出土遺物



11



12



13



14



15

2号竪穴遺構出土遺物



16

3号竪穴遺構出土遺物



17



第20図 遺物実測図（2）

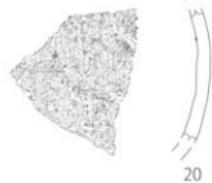
SP105出土遺物



18

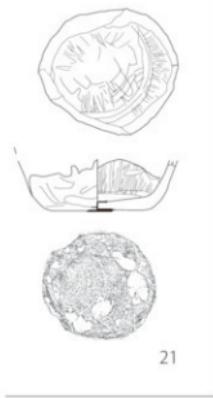


19



20

SP106出土遺物

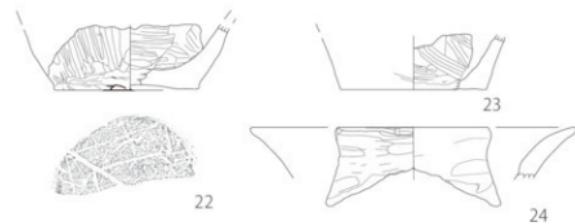


21



26

遺構外出土遺物



22

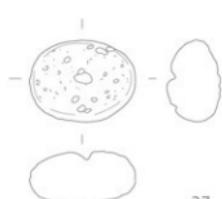
23

24



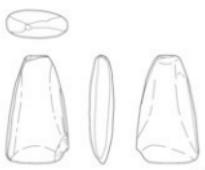
25

1号竪穴遺構



27

遺構外出土遺物



28



第21図 遺物実測図(3)

表 6 遺物観測表 (1)

件名 体積 番号	出土 地點 No.	種別	法寸 cm.	寸法 mm. \times 厚さ mm.	表面 状況	表面・断面の特徴		内面	外面	内面	外面	上	下	焼度	備考	
						内面	外面			内面	外面					
1 119807-11 SH.11	上部器 片	灰	-	-	-37× 66	体部-底部 スリ、体部-底部 カズリ、体部-底部 切欠?	底部から内側に立ち立たる。体部下には約2cmの底部より立ち立たる部分が認められる。	53986.6 相	53986.6 相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
2 119807-15 SH.15	上部器 片	灰	63.8	-	-33× 65	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。体部-底部 カズリ、	底部から内側に立ち立たる。体部-底部 カズリ、	7.2N85.4 上相	7.2N85.4 上相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
3 119807-32 SH.32	上部器 壁	灰	-	-	-	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。体部-底部 カズリ、	底部から内側に立ち立たる。体部-底部 カズリ、	53986.6 本相	53986.6 本相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
4 119807-33 SH.12.14	上部器 壁	灰	-	0.30	-23.7× 65	底部表面は 滑らか。表面には 細かい凹凸がある。	底部表面は 滑らか。表面には 細かい凹凸がある。	2.2N85.4 中相	2.2N85.4 中相	良好	好	好	好	小程度	小程度	小程度
5 119807-27 SH.27.29	上部器 壁	灰	-	-	-	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	2.2N85.6 里相	2.2N85.6 里相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
6 119807-26 SH.26	上部器 壁	灰	-	-	-	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	2.2N85.6 里相	2.2N85.6 里相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
7 119807-46 SH.46	上部器 壁	灰	-	-	-	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	2.2N84.6 本相	2.2N84.6 本相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
8 119807-33 SH.13.33	陶器	灰	-	0.28	-41× 10	全体的に 滑らか。表面には 細かい凹凸がある。	全体的に 滑らか。表面には 細かい凹凸がある。	2.2N44.1 里相	2.2N44.1 里相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
9 119807-1 梗 (119808)	梗	灰	-	0.28	-47× 10	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	断面-3.7Y2/2 火目	断面-3.7Y2/2 火目	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
10 119807-45 SH.45	上部器 壁	灰	-	-	-	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	「口」部- 底部から内側に立ち立たる。	10.2N4.6 本相	10.2N4.6 本相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
11 119807-45 梗 (119808)	梗	灰	-	0.20	-28× 10	全体-底部 ロクロ	全体-底部 ロクロ	2.2N4.1 黄相	2.2N4.1 黄相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
12 119807-25 SH.25	残底部	灰	-	-	-	「口」部- 底部 ハゲタ、タキ	「口」部- 底部 ハゲタ、タキ	舟形底、テヌ	舟形底、テヌ	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
13 119807-18 SH.18	陶器	灰	-	0.30	-25× 10	底部 底部 底部	底部 底部 底部	2.2N14.2 里相	2.2N14.2 里相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
14 119807-1 梗 (119808)	梗	灰	-	-	-	斜面-底部 斜面-底部 斜面-底部	斜面-底部 斜面-底部 斜面-底部	2.2N14.1 黑相 火目	2.2N14.1 黑相 火目	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
15 119807-1 梗 (119808)	梗	灰	-	-	-	斜面-底部 斜面-底部 斜面-底部	斜面-底部 斜面-底部 斜面-底部	2.2N16.1 黑相 火目	2.2N16.1 黑相 火目	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
16 2.2N85.6 SH.27	上部器 片	灰	70	-	-	底部 底部 底部	底部 底部 底部	7.2N85.6 本相	7.2N85.6 本相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
17 3.7Y2/2 SH.24	上部器 壁	灰	-	-	-	「口」部- 底部 カズリ	「口」部- 底部 カズリ	5.2N85.6 里相	5.2N85.6 里相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
18 SH.95 11.21.16	上部器 片	灰	-	0.05	-	「口」部- 底部 カズリ	「口」部- 底部 カズリ	7.2N85.4 上相	7.2N85.4 上相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
19 SH.95 11.21.16	上部器 壁	灰	-	0.05	-1.5	「口」部- 底部 カズリ	「口」部- 底部 カズリ	7.2N85.4 上相	7.2N85.4 上相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度
20 SH.95 11.21.16	上部器 壁	灰	-	-	-	「口」部- 底部 カズリ	「口」部- 底部 カズリ	7.2N85.4 上相	7.2N85.4 上相	良好	好	好	好	中程度	中程度	中程度

表 7 遺物観測表 (2)

種別 番号	発見した場所	発見した年	発見した月	発見した日	法貫(年)、(月)、(日)	種別	形態	表面・裏面の特徴	外観		内観		地質	地底	備考		
									表面	裏面	表面	裏面					
21	SPI06	SP/215-20	上部層	片	—	体部～頭部	直角系の矢張り外観を「タケノコ」。頭部と体部の頭部の面は「山みどり」に類似。体部は複数の窓介合2.2mS5.6M	表面	表面	表面	表面	表面	長石	良好	7m(範囲)、直角系		
22	渕谷区	-15	上部層	圓	—	(60)	—	体部～頭部	直角系の矢張り外観。体部は複数の窓介合。頭部は丸形。	表面	表面	表面	表面	長石	良好	直角系	
23	渕谷区	-15	上部層	圓	—	(60)	—	体部～頭部	直角系の矢張り外観。体部は複数の窓介合。頭部は丸形。	表面	表面	表面	表面	長石・金	良好	直角系	
24	渕谷区	-15	上部層	圓	—	—	—	口縁部	むちがい外観にて立ち上がり。口縁部には先をややひらき口コナ子	表面	表面	表面	表面	長石・金	良好	直角系	
25	渕谷区	-15	頭部部	圓	—	—	—	体部	複数の窓介合。タキ子、尖鋸歯がある。	表面	表面	表面	表面	金	良好	直角系	
26	渕谷区	-15	上部層	圓	—	—	—	口縁部～体部	直角系の矢張り外観にて立ち上がり。口縁部には先をややひらき口コナ子	表面	表面	表面	表面	直角型	—	—	
27	1丁目67番地	SHI 13	石板層	円石	6.5	50	31	完形	—	—	10mS6.1	—	—	—	直角系 11.0kg	直角系	—
28	渕谷区	-15	石板層	圓	6.7	38	17	ほぼ完形	—	—	NZ	黑	—	—	直角系 7.3kg	直角系	—

第7章　まとめ

大月遺跡は県立都留高等学校敷地内において過去十数回の調査が行われてきた。調査の結果、大規模な集落跡の痕跡が見つかっている。今回、都留高等学校を離れ北東に位置する大月東小学校の敷地内で調査が行われた。過去の調査の構状遺構が今回の調査区域方向に延びている状況も確認されている。調査範囲が狭いため調査区全体の性格を把握する事は困難であるが遺構・遺物からその性格を検討してみる。

縄文時代の遺構は検出されなかったが磨製石斧が出土し、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出された。北調査区と南調査区では遺構の種別が異なっているが、調査範囲が狭いため区域によって遺構の性格が異なっているのか断定は出来ない。

南調査区では、竪穴遺構4基が検出された。その内の2基（1号・4号竪穴）はその残存状況から住居跡と思われる。4号はカマドが検出されたが住居部分の掘り方が検出されず、1号の遺構確認面でカマドの袖、袖石が検出された状況であった。カマドの位置から1号の範囲まで広がっている可能性が大きいことから4号を1号が切っていると推測される。2・3号は検出された位置が擾乱を受けていたため遺構確認が1号の床面になってしまった。規模や傾きがほぼ一致している事から同時期の遺構と思われる。切り合い関係は遺構の検出状況から1号を2・3号が切っている状況である。1号は調査区外に延びており住居跡としては規模が大きい。竪穴の新旧に関しては、出土している遺物では明確な時期差までは断定する事は出来ない。遺構の切り合い関係から見ると、古い順に4号→1号→2・3号と3つの時期に分類できる。

土坑は調査区中央付近で集中して検出された。1号土坑と2・3・4号土坑は形状が異なっており、後者は溝状遺構の先端部の可能性が考えられる。

ピット群は北調査区で主に検出された。ピットの形状・覆土の違いに特徴を見ることが出来るが、建物としての明確な構成を断定する事はできない。

次に遺物の特徴を見てみる。

环は完形品が無く、底部から体部中位、底部のみ、口縁部から体部片のような残存状況である。

1. 体部はロクロ整形で体部外面はミガキ調整。
2. 底部は、①回転糸切り後外周をヘラケズリ ②中央部以外ほぼ全面がヘラケズリ ③全面をヘラケズリ、の3パターンを見ることができる。
3. 内面、見込み部に暗文。
4. 見込み部と体部の境界をヘラミガキ。
5. 器形は口縁部にかけて内湾しながら直立気味に立ち上がる。
6. 体部外面下半にヘラケズリ。

以上の特徴からいざれも甲斐型土器で「県史編年」Ⅲ期（8世紀後半）に属すると思われる。

甕は口縁部、体部、底部といった破片が多く上器の全体像を把握する事は出来ないが、器形や調整方法には、器壁の厚さやハケメの細かさの違いや、胎土では金雲母の含有量や土器の肌質の違い、色調では甲斐型土器に多く見られる赤褐色を呈している個体やクリーム色等、個体の違いを見ることが出来る。

全体的に出土した遺物は破片が多いため細かな時期の特定は難しいが、以上のような特徴から甲斐型土器を中心に奈良時代から平安時代にかけての在地系の土器が含まれ、さらに相模型、駿東型、武藏型といった搬入品が混在していると思われる。

今回の調査結果から、活発な地域間の交流というものを垣間見ることが出来た。また、今回の調査で検出された1号竪穴住居跡のような、規模の大きな特徴を持つ遺構の性格に関しても今後、周辺の調査結果を踏まえ検討していく必要がある。

今回の調査では、大月遺跡がさらに北東方向に拡がっている事も確認され、より大規模な集落の存在が想定される事となった。

引用・参考文献

- 仁科義男 1935『甲斐の先史並原史時代の調査 全』
大月市 1978『大月市史 通史編 上巻』
都留市 1986『都留市史 資料編 地史・考古』
大月市教育委員会 1972『宮谷遺跡発掘調査報告』
山梨県教育委員会 1977『大月遺跡(1)』*1
山梨県教育委員会 1997『大月遺跡』(「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第139集」)*2
山梨県教育委員会・建設省関東地方建設局甲府工事事務所
2000『大月遺跡第7・8次』(「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第159集」)
山梨県教育委員会 2000『大月遺跡(第10次調査)』
〔「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第174集」〕
山梨県教育委員会・日本鉄道建設公団
1996『外ガイド遺跡発掘調査報告書』
〔「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第117集」〕
山梨県教育委員会・建設省関東地方建設局甲府工事事務所
1998『大月市御所遺跡』(「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第154集」)
山梨県教育委員会・日本道路公团東京建設局
1999『原平遺跡』(「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第160集」)

甲斐型土器編年についての参考文献

- 保坂康夫 1998『山梨県下における古代前半のロクロ整形土師器縁をめぐって』
〔『山梨県考古學協會誌 第2号』山梨県考古學協會〕
室伏 敬・平野 修 2004『大月遺跡について—都留郡家(衙)としての再検討』
〔『山梨県考古學論集V』山梨県考古學協會〕
山梨県考古學協會 1992『甲斐型土器—その編年と年代—』甲斐型土器研究グループ
山梨県 1999『山梨県史 資料編2 原始・古代2 考古(遺構・遺物)』

*1 第4次調査報告書

*2 第6次調査報告書

写真図版



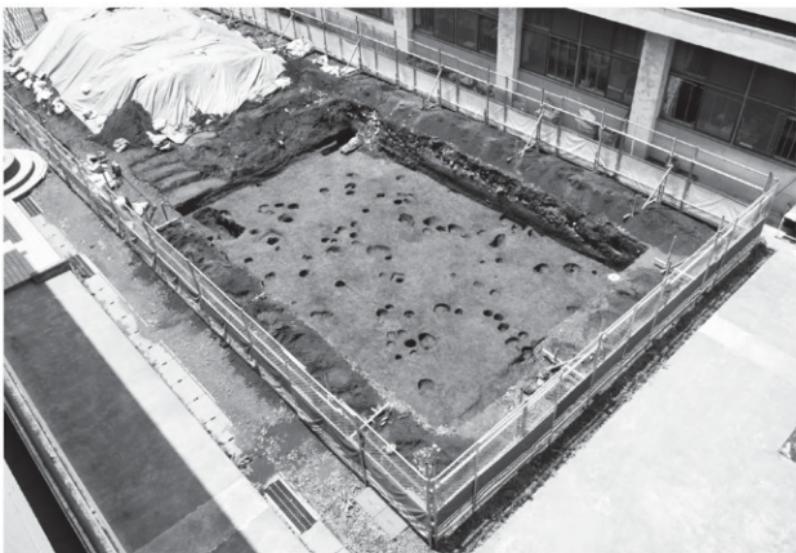
1. 解体工事前



2. 調査前風景（解体工事後）



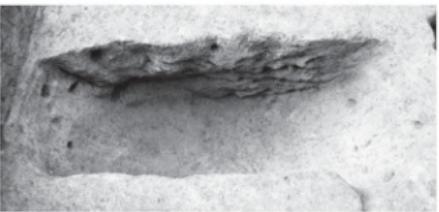
3. 北調査区全景（東から）



4. 北調査区全景（北東から）



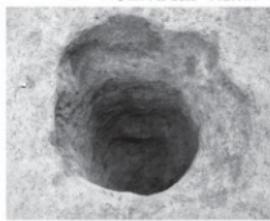
5. SP69 完掘（北東から）



6. 1号土坑完掘（東から）



7. 1号土坑土層断面（北東から）



8. SP69 完掘（北から）



9. 北調査区東壁土層断面（南西から）



10. 北調査区西壁土層断面（北東から）



11. 北調査区北壁土層断面（南から）



12. 南調査区全景（西から）



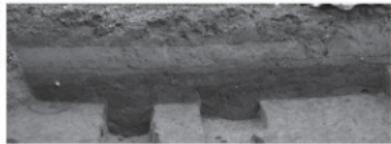
13. 南調査区北側（西から）



14. 南調査区南側（北西から）



15. 南調査区南側（西から）



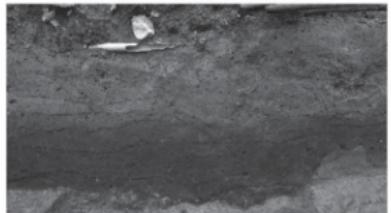
16. 南調査区東壁北側土層断面



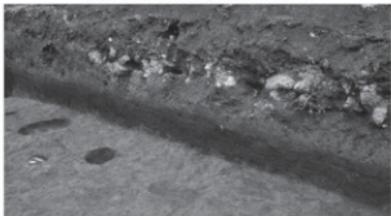
17. 南調査区東壁南側土層断面



18. 南調査区西壁土層断面 1



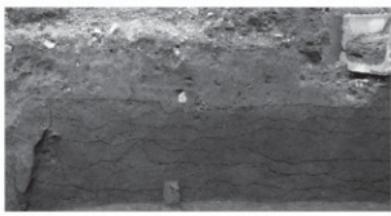
19. 南調査区西壁土層断面 2



20. 南調査区西壁土層断面 3



21. 南調査区南壁土層断面 1



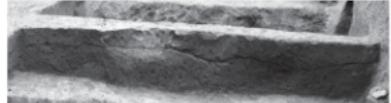
22. 南調査区南壁土層断面 2



23. 南調査区南壁土層断面 3



24. 1号竪穴遺構東壁土層断面 1



25. 1号竪穴遺構東壁土層断面 2



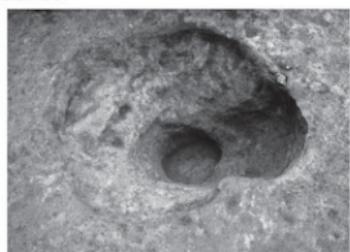
26. 1号竪穴遺構北壁土層断面



27. 1号竪穴遺構（西から）



28. 1号竪穴遺構 SP99 土層断面（南西から）



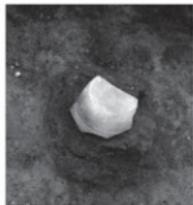
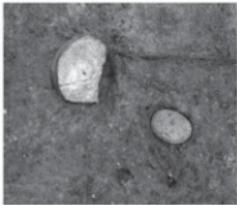
29. 1号竪穴遺構 SP99（南西から）



30. 1号竪穴遺構 SP104 土層断面（南西から）



31. 1号竪穴遺構 SP104（南西から）



32. 1号竪穴遺構遺物出土状況 1（左から全体・NO. 4,27・NO.1）



33. 1号竪穴遺構遺物出土状況 2（左から NO.13・NO.2・NO.12,5）



34. 1号竪穴遺構掘り方（西から）



35. SP105 土層断面（西から）



36. SP105（西から）



37. 2号竪穴遺構東壁土層断面（東から）



38. 2号竪穴遺構（南から）



39. 3号竪穴遺構（西から）



40. 3号竪穴遺構東壁土層断面



41. 3号竪穴遺構南壁土層断面



42. 4号竪穴遺構（西から）



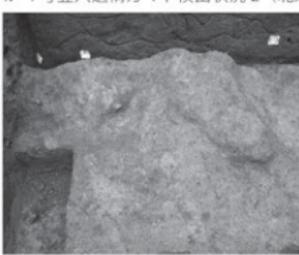
43. 4号竪穴遺構カマド検出状況 1（南から）



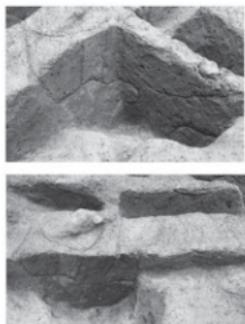
44. 4号竪穴遺構カマド検出状況 2（北から）



45. 4号竪穴遺構カマド検出状況 3（西から）

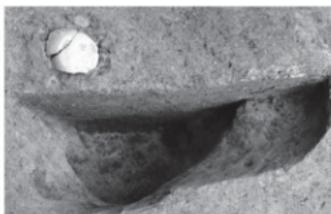


46. 4号竪穴遺構カマド検出状況 4（北から）

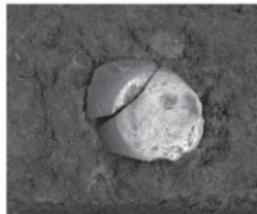


47. 4号竪穴遺構カマド掘り方

48. SP100（西から）



49. SP106 土層断面（南西から）



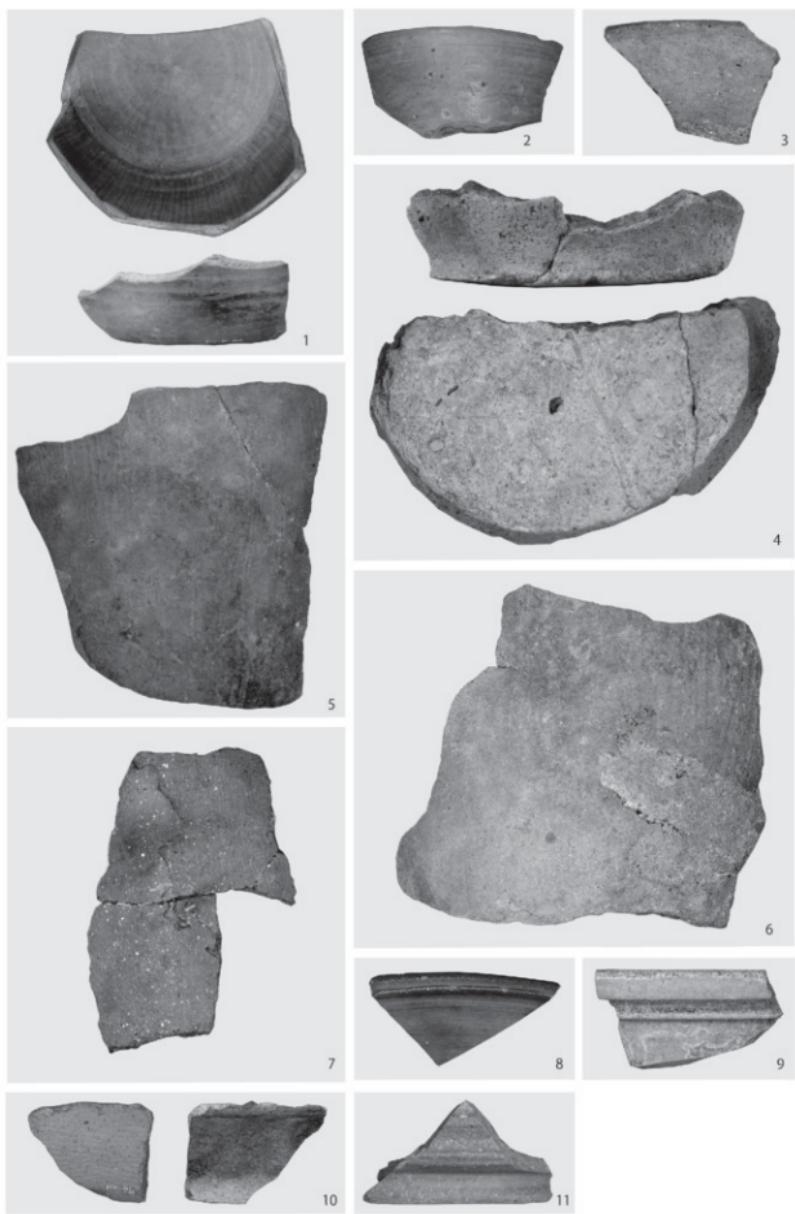
50. SP106 遺物出土状況 (No.21) (南西から)



51. 2号～4号土坑（北から）

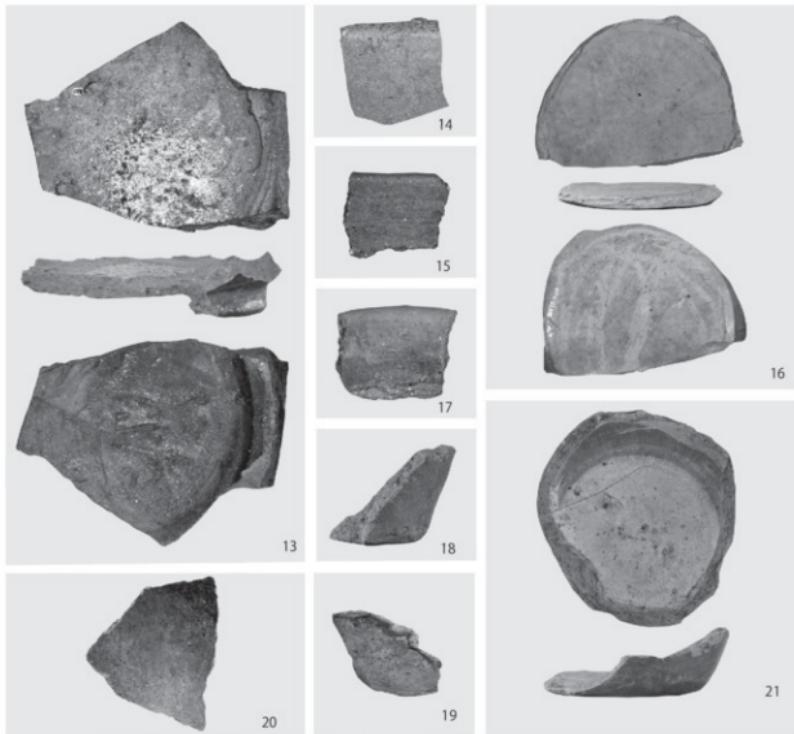


52. 2号～4号土坑土層断面





12



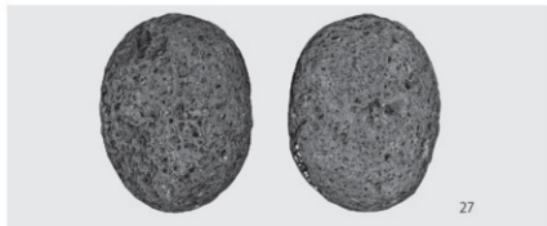
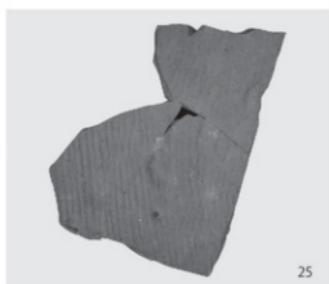
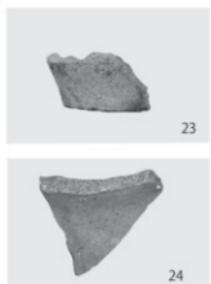
13

18

20

19

21



報告書抄録

フリガナ	オオツキイセキ（ダイジュウイチヂョウサ）								
書名	大月遺跡（第11次調査）								
副書名	—大月東小学校校舎建替えに伴う発掘調査報告書—								
編著者名	稲垣白也（大月市教育委員会）・小谷亮二（昭和測量株式会社）								
編集機関	昭和測量株式会社								
所在地	〒400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 Tel 055-235-4448								
発行年月日	西暦 2015（平成27）年 3月31日								
フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m)	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(m)		
オオツキイセキ 大月遺跡 （第11次調査）	山梨県 大月市大月二丁目 字中道 318番外	甲府市	19206	35° 36° 36°	138° 56° 26°	20140609～20140709	250	大月東小学校校舎建替え	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項		
大月遺跡 (第11次調査)	集落	縄文		磨製石斧、磨石			遺構は確認されなかつた。		
		奈良・平安	竪穴遺構 4基、 土坑5基、ピット 106基	須恵器・土師器			竪穴遺構の内1・4号は 検出状況から住居跡と考えられる。		

大月市埋蔵文化財報告書

大月遺跡（第 11 次調査）

—大月東小学校校舎建替えに伴う発掘調査報告書—

発行日 平成 27 年 3 月 31 日

編集 昭和測量株式会社

〒 400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 〠 055-235-4448

発行 大月市教育委員会

〒 409-0614 山梨県大月市大月 2 丁目 6-20 〠 0554-22-2111

昭和測量株式会社

〒 400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 〠 055-235-4448

印刷・製本 株式会社 内田印刷所

〒 400-0032 山梨県甲府市中央 2-10-18 〠 055-233-0188
